

B 知的障害者

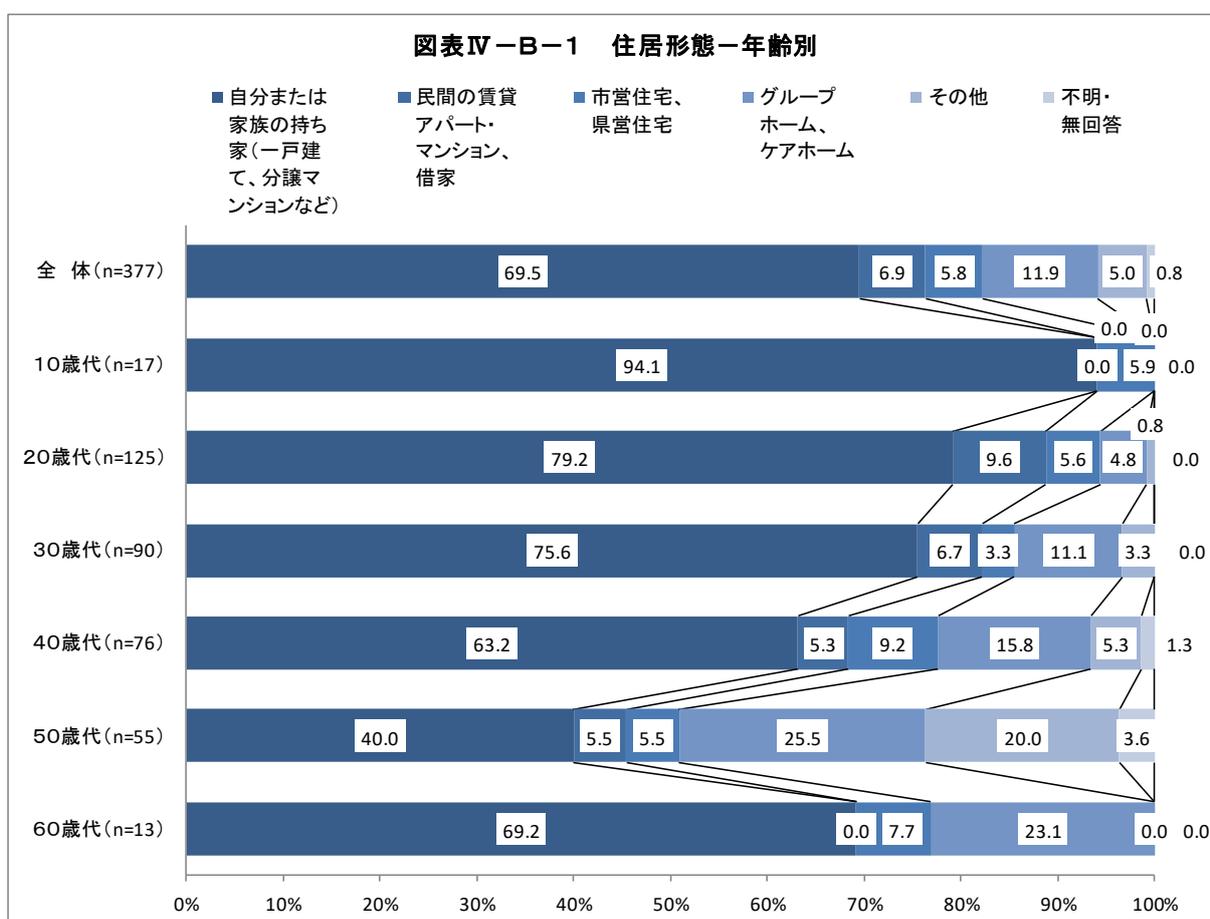
1 生活の場について

(1) 住居形態 (問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、69.5%、「グループホーム」は、11.9%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、6.9%、「市営住宅、県営住宅」は、5.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、10歳代が94.1%、次に20歳代が79.2%である。「グループホーム」は、50歳代が25.5%、次に60歳代が23.1%である。

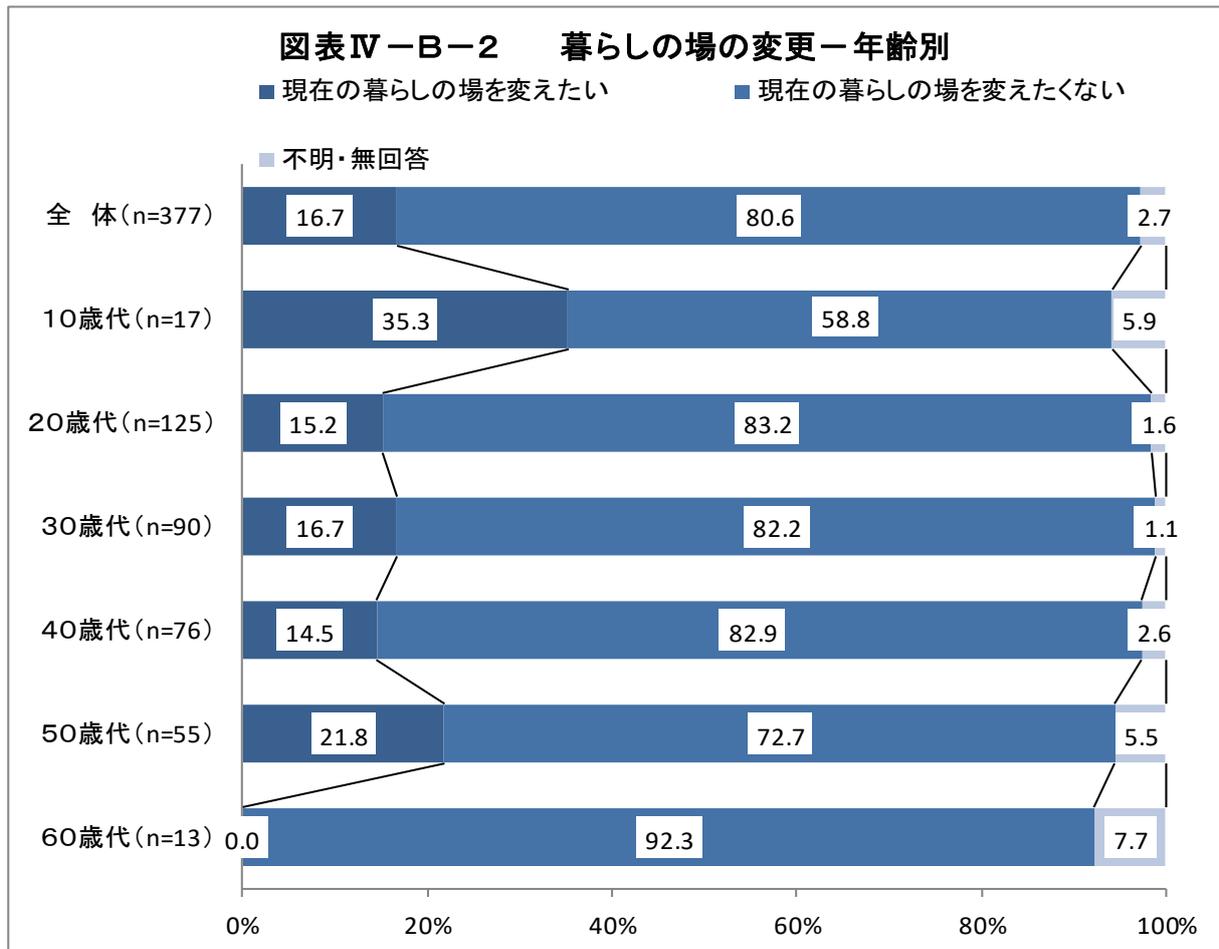


(2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、80.6%、一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、16.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、60歳代が92.3%、次に20歳代が83.2%である。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、10歳代が35.3%、次に50歳代が21.8%である。

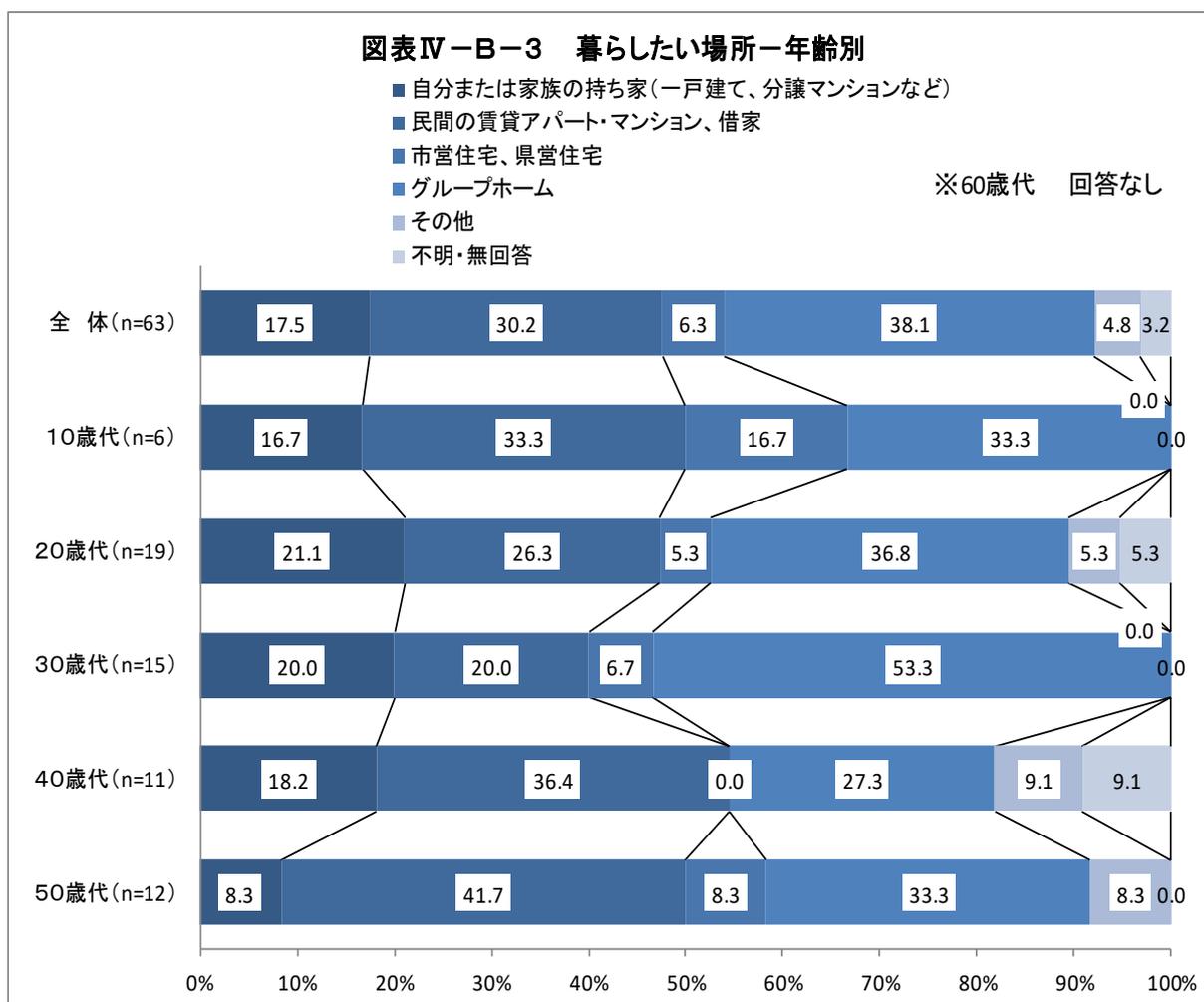


(3) 暮らしたい場所（問6）

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「グループホーム」は、38.1%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30.2%、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、17.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「グループホーム」は、30歳代が53.3%、次に20歳代が36.8%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、50歳代が41.7%、次に40歳代が36.4%である。「自分または家族の持ち家」は、20歳代が21.1%、次に30歳代が20.0%である。

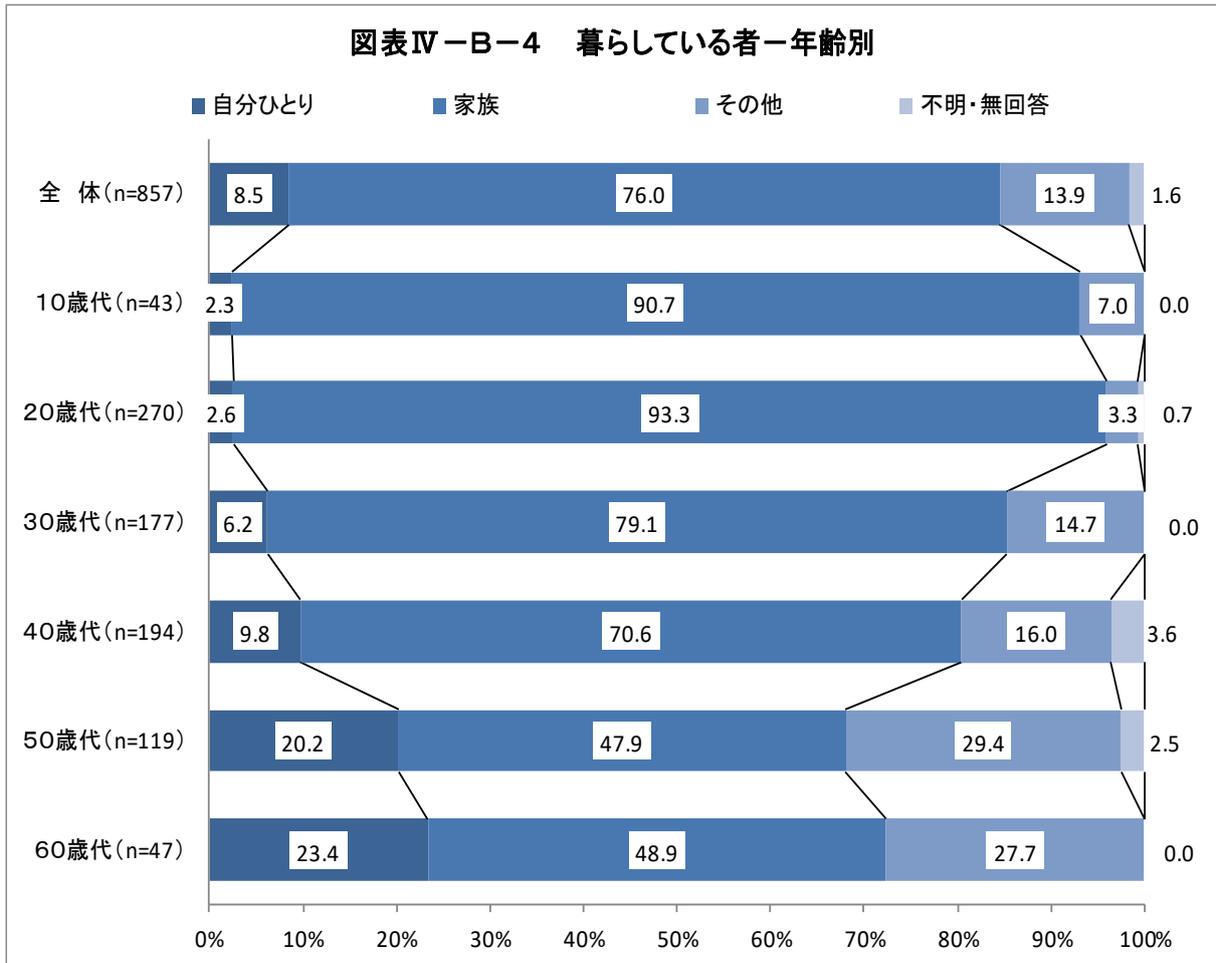


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、76.0%、「自分ひとり」は、8.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、20歳代が93.3%、次に10歳代が90.7%である。一方「自分ひとり」は、60歳代が23.4%、次に50歳代が20.2%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

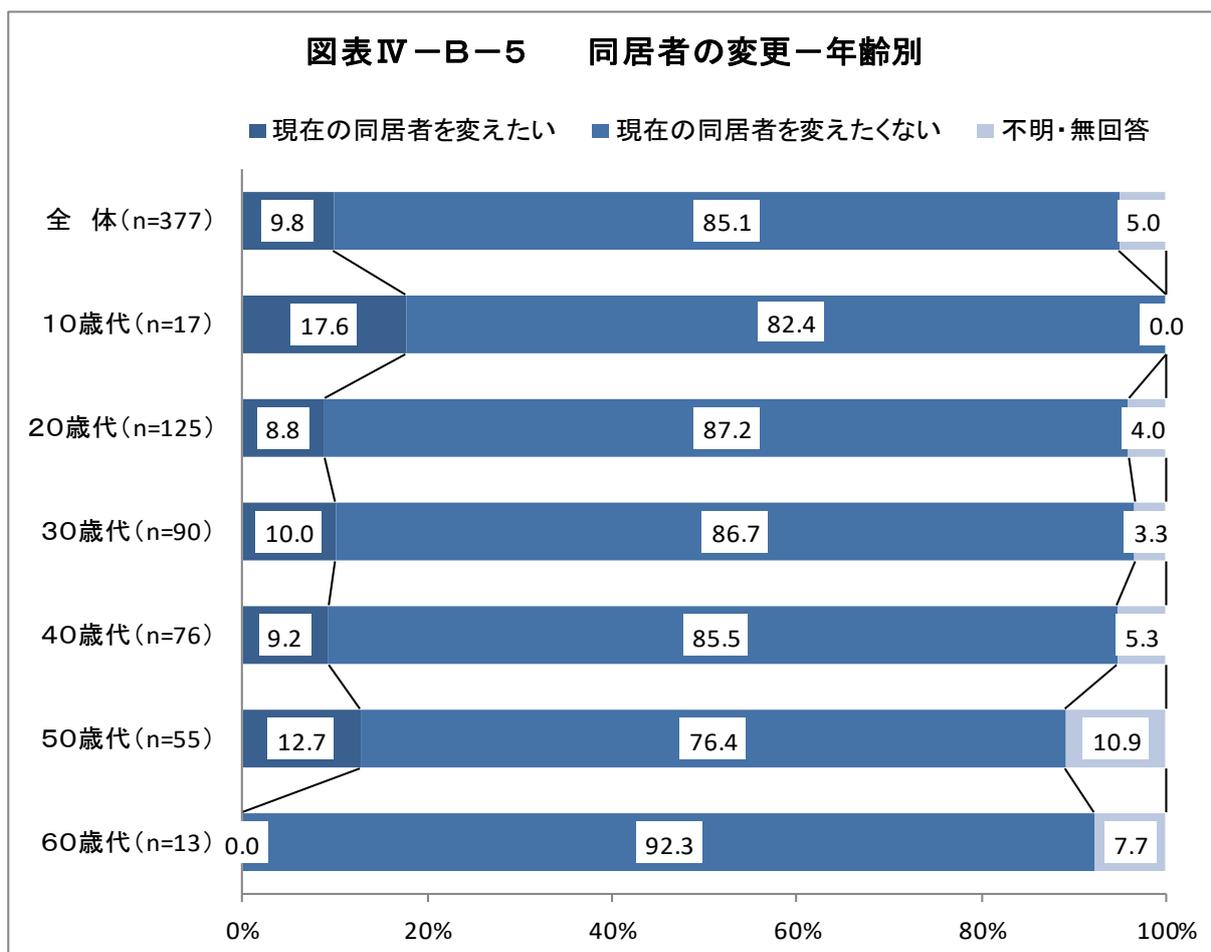


(5) 同居者の変更 (問8)

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、85.1%、「現在の同居者を変えたい」は、9.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、60歳代が92.3%、次に20歳代が87.2%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、10歳代が17.6%、次に50歳代が12.7%である。

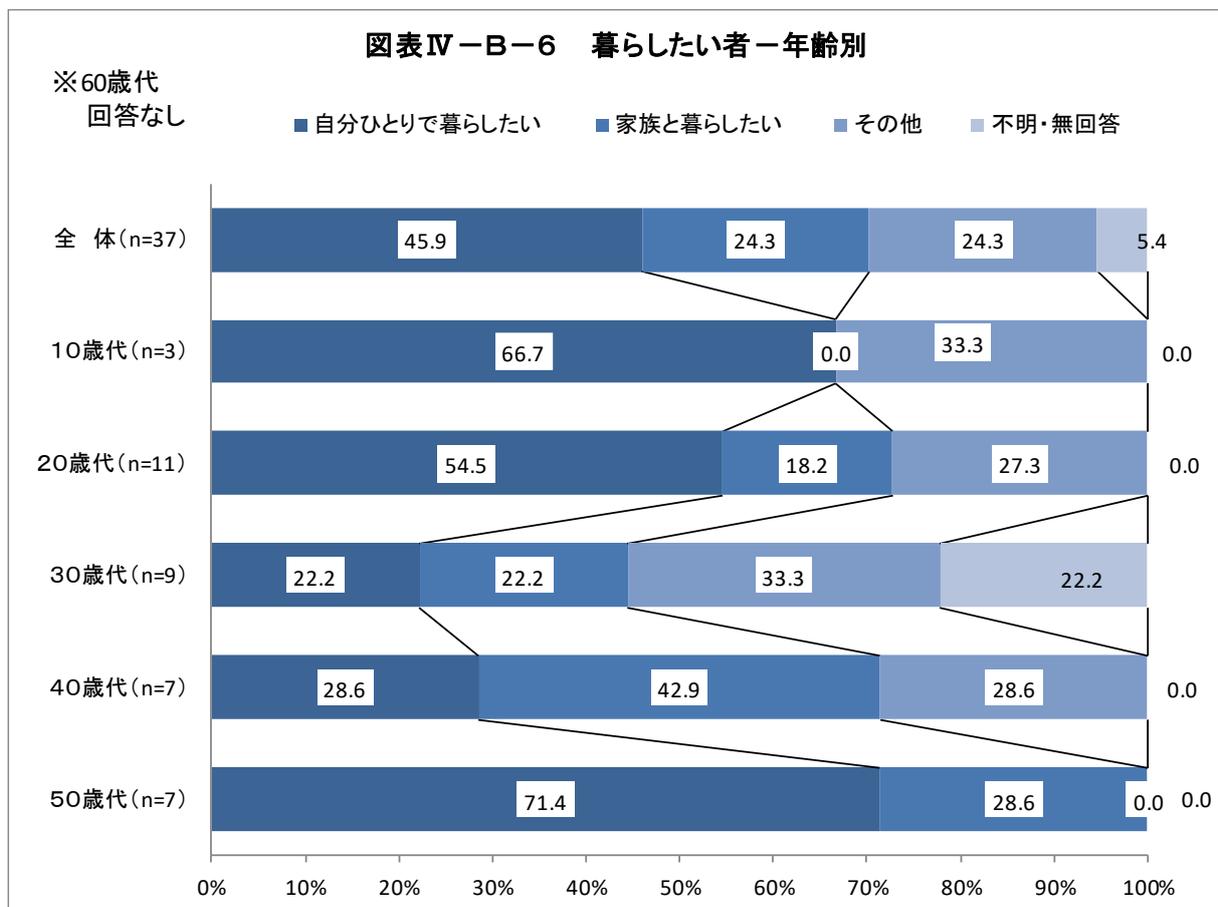


(6) 暮らしたい者 (問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「自分ひとりで暮らしたい」は、45.9%、「家族と暮らしたい」と「その他」は、24.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分ひとりで暮らしたい」は、50歳代が71.4%、次に10歳代が66.7%である。一方「家族と暮らしたい」は、40歳代が42.9%、次に50歳代が28.6%である。

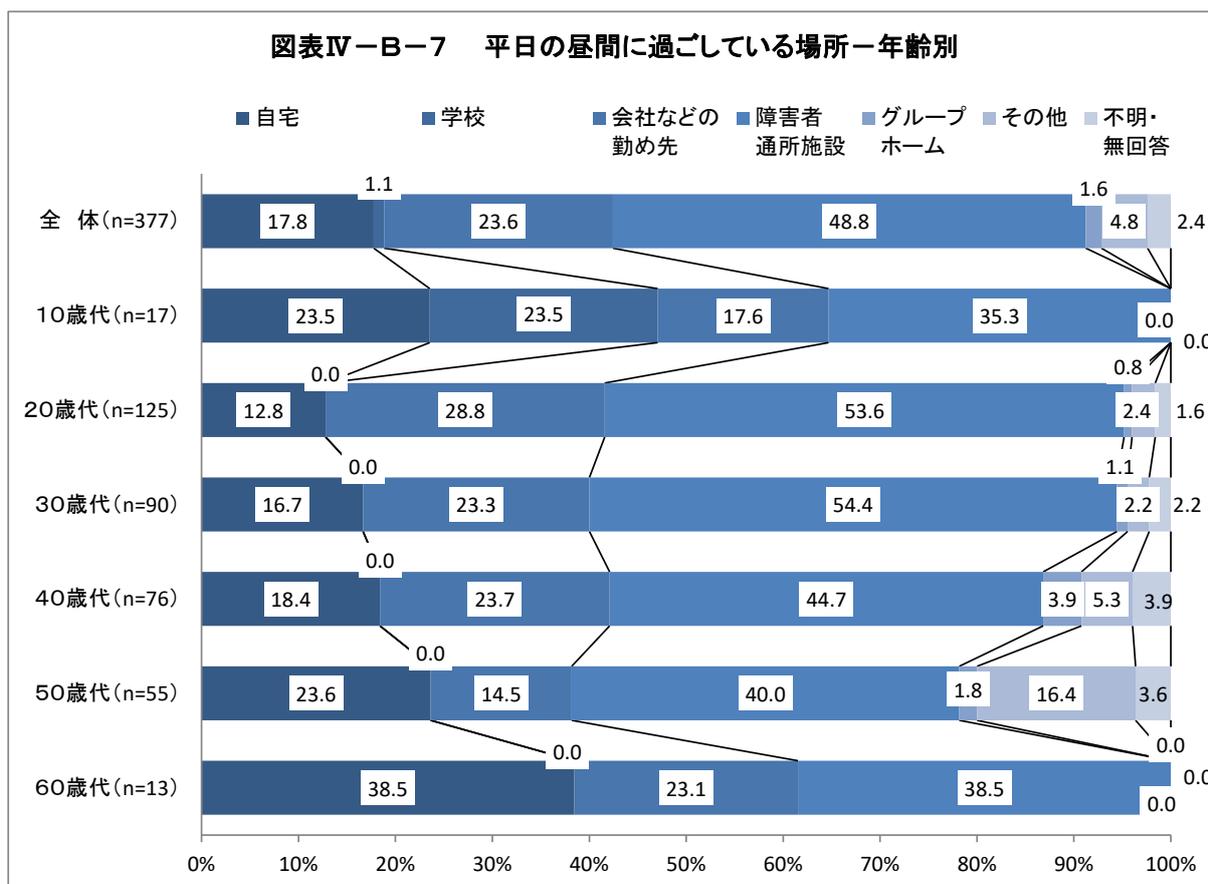


(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問10)

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「障害者通所施設」は、48.8%、「会社などの勤め先」は、23.6%、「自宅」は、17.8%である。

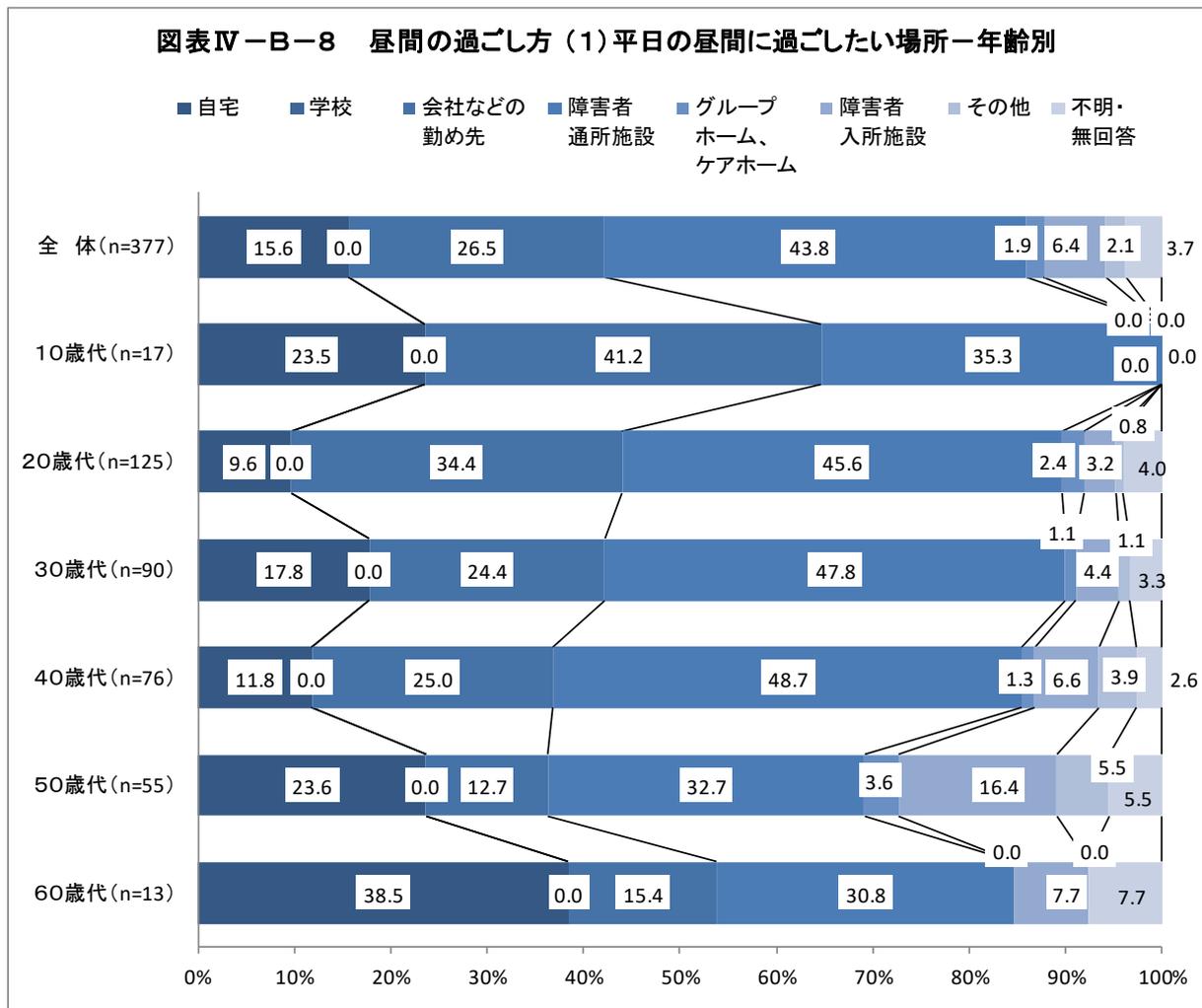
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者通所施設」は、30歳代が54.4%、次に20歳代が53.6%である。「会社などの勤め先」は、20歳代が28.8%、次に40歳代が23.7%である。「自宅」は、60歳代が38.5%、次に50歳代が23.6%である。年齢が上がるごとに割合が高い。



(8) 昼間の過ごし方(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「障害者通所施設」は、43.8%、「会社などの勤め先」は、26.5%、「自宅」は、15.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者通所施設」は、40歳代が48.7%、次に30歳代が47.8%である。「会社などの勤め先」は、10歳代が41.2%、次に20歳代が34.4%である。10歳代から40歳代の割合が高い。「自宅」は、60歳代が38.5%、次に50歳代が23.6%である。



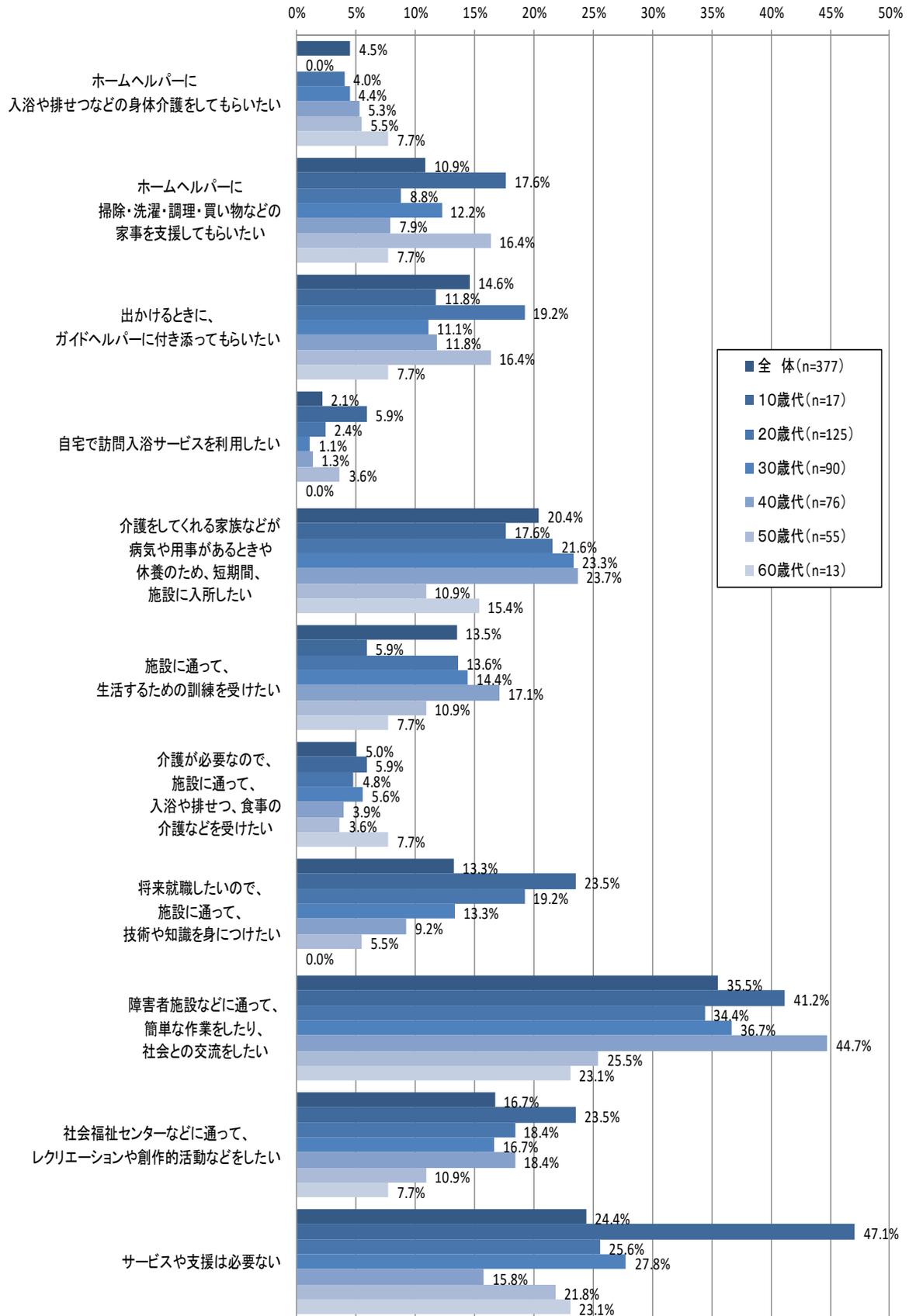
(8) 昼間の過ごし方-(2)昼間に利用したいサービスや支援(問11(2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、35.5%、「サービスや支援は必要ない」は、24.4%、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、20.4%、「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしたい」は、16.7%、「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」は、14.6%、「施設に通って、生活するための訓練を受けたい」は、13.5%、「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」は、13.3%、「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、10.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見ると、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、40歳代が44.7%、次に10歳代が41.2%である。「サービスや支援は必要ない」は、10歳代が47.1%、次に30歳代が27.8%である。「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、40歳代が23.7%、次に30歳代が23.3%である。「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしたい」は、10歳代が23.5%、次に20歳代と40歳代が18.4%である。「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」は、10歳代が23.5%、次に20歳代が19.2%である。

図表Ⅳ-B-9 昼間の過ごし方（2）昼間に利用したいサービスや支援一年齢別
（複数回答）



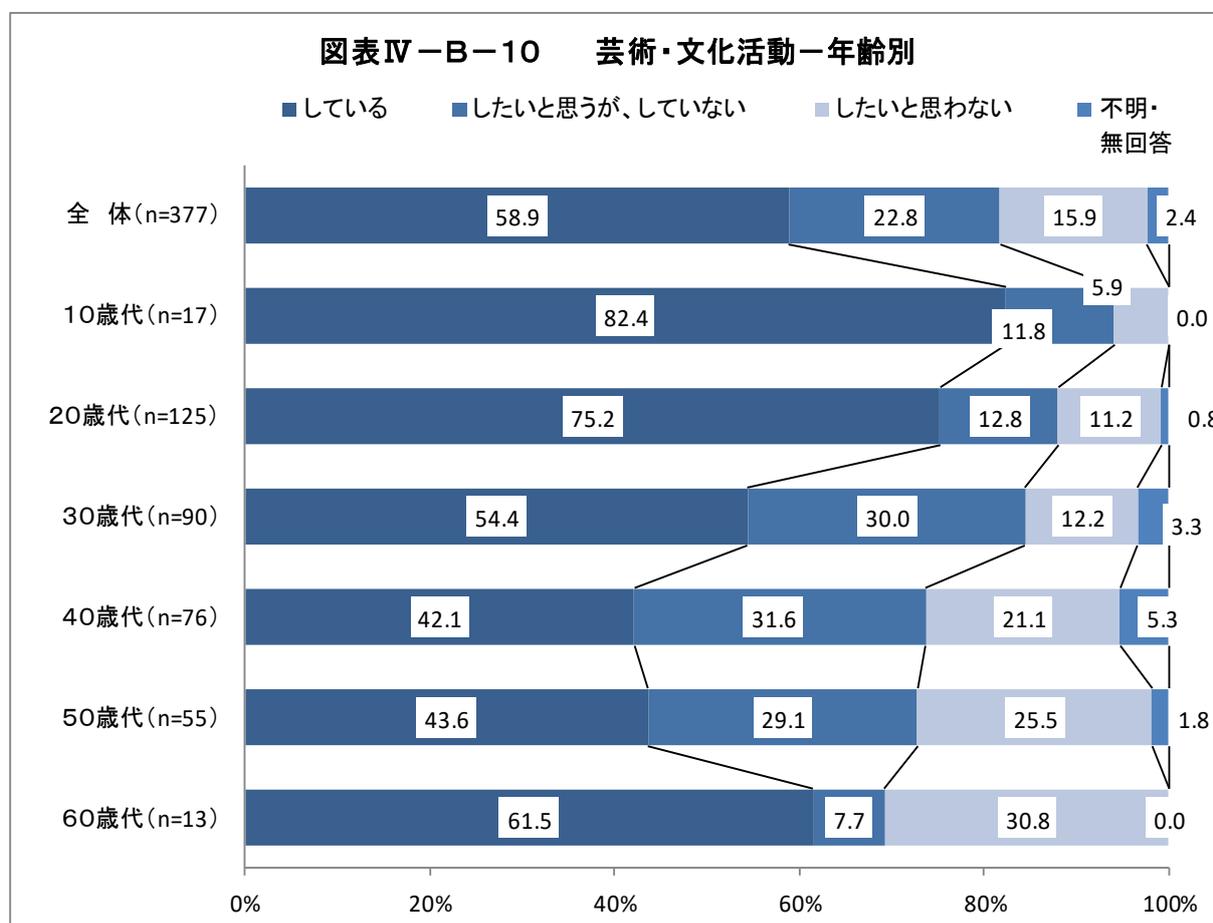
2 文化・スポーツについて

(1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、58.9%、「したいと思うが、していない」は、22.8%、「したいと思わない」は、15.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が82.4%、次に20歳代が75.2%である。「したいと思うが、していない」は、40歳代が31.6%、次に30歳代が30.0%である。30歳代から50歳代の割合が高い。「したいと思わない」は、60歳代が30.8%、次に50歳代が25.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

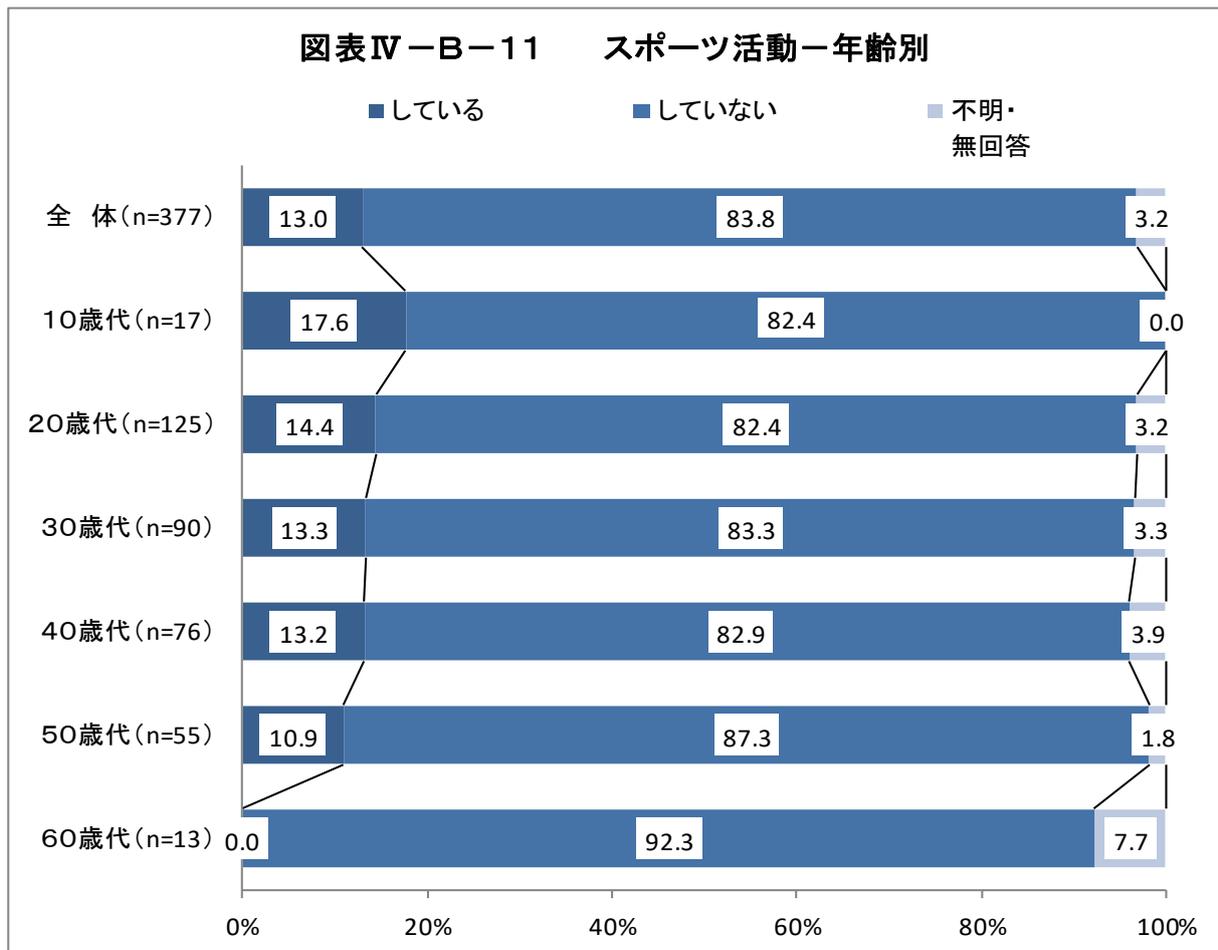


(2) スポーツ活動の実施 (問13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、13.0%、「していない」は、83.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が17.6%、次に20歳代が14.4%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「していない」は、60歳代が92.3%、次に50歳代が87.3%である。

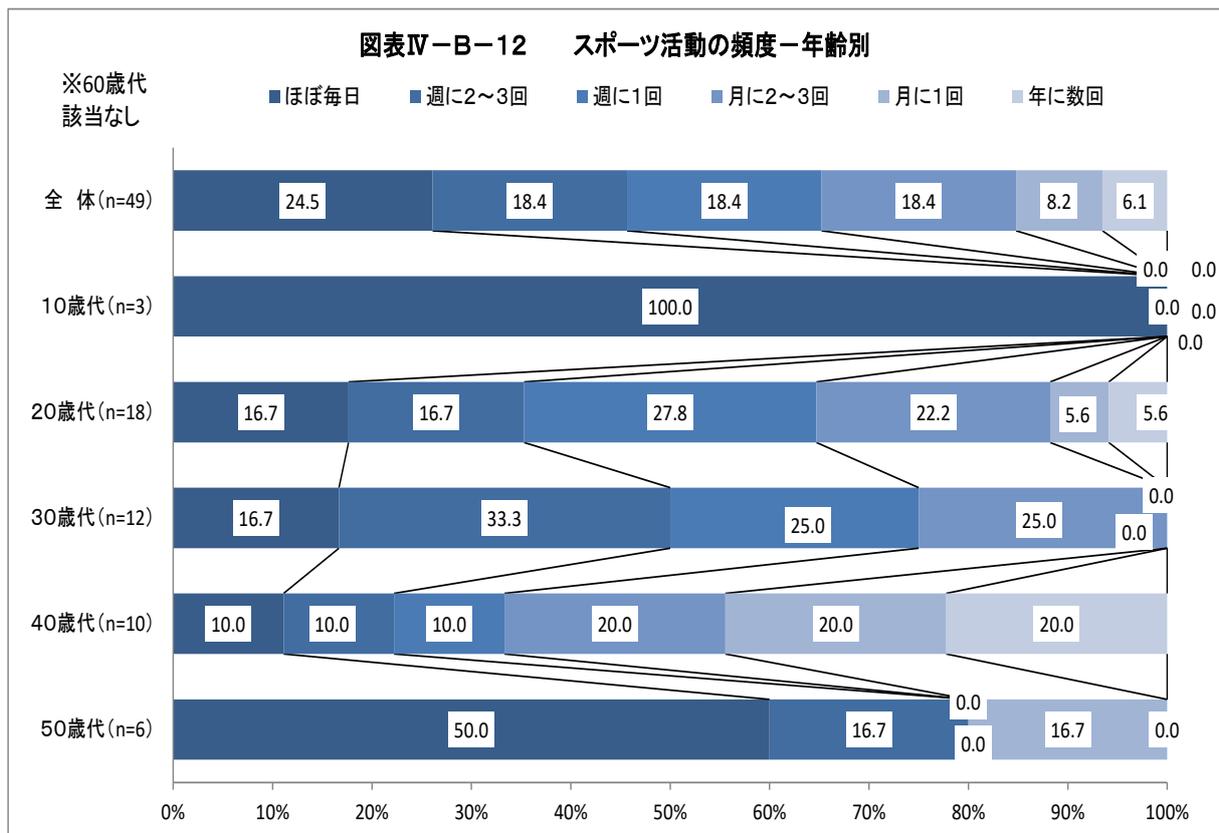


(3) スポーツ活動の頻度 (問14)

問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、24.5%、「週に2～3回」と「週に1回」と「月に2～3回」は、18.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、10歳代が100.0%、次に50歳代が50.0%である。「週に2～3回」は、30歳代33.3%である。「週に1回」は、20歳代が27.8%である。

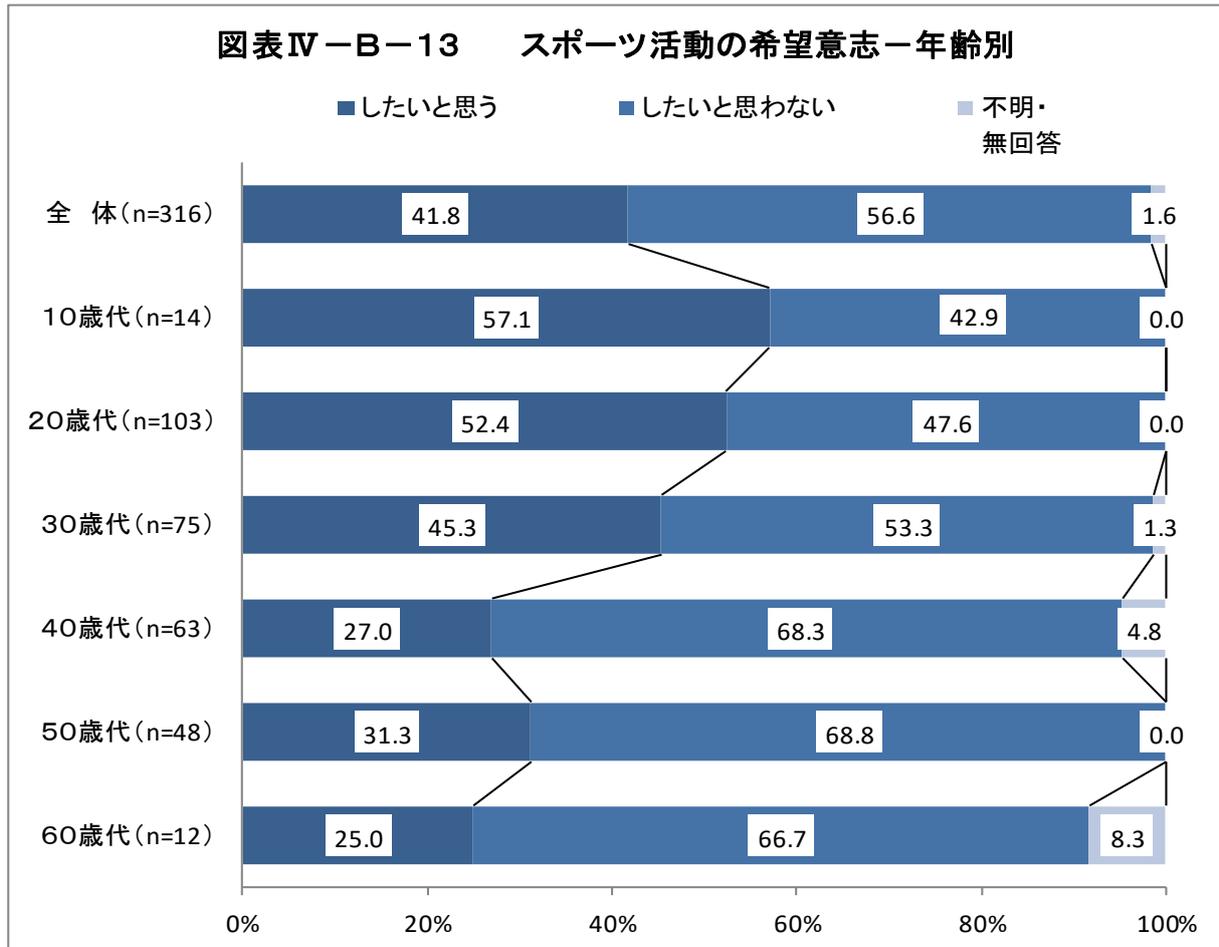


(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問15)

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、41.8%、「したいと思わない」は、56.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、10歳代が57.1%、次に20歳代が52.4%である。年齢が下がるごとに割合が高い。一方「したいと思わない」は、50歳代が68.8%、次に40歳代が68.3%である。



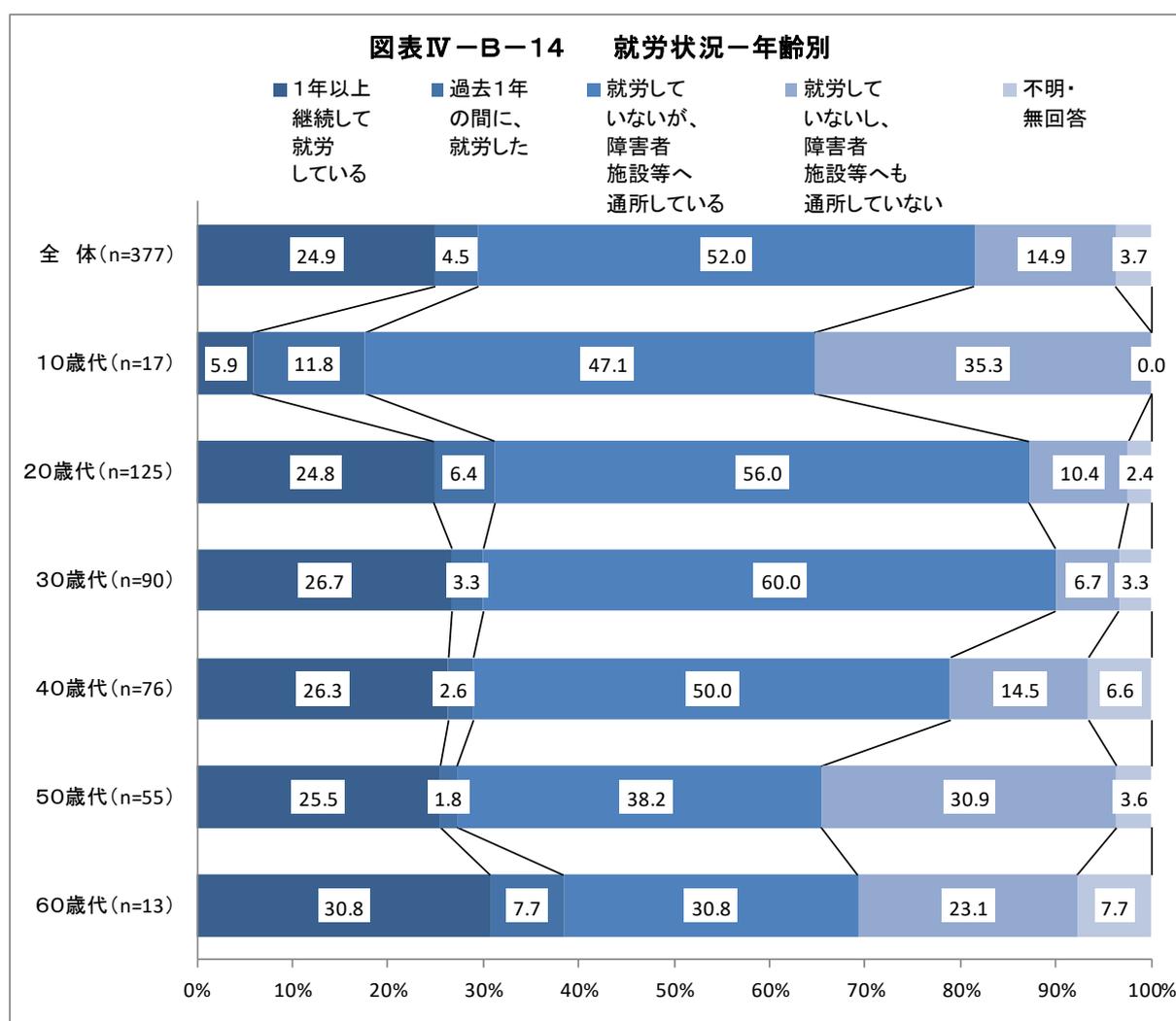
3 就労について

(1) 就労状況（問16）

現在、就労をしているかをたずねた。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、52.0%、「1年以上継続して就労している」は、24.9%、「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、14.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、30歳代が60.0%、次に20歳代が56.0%である。「1年以上継続して就労している」は、60歳代が30.8%、次に30歳代が26.7%である。「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、10歳代が35.3%、次に50歳代が30.9%である。



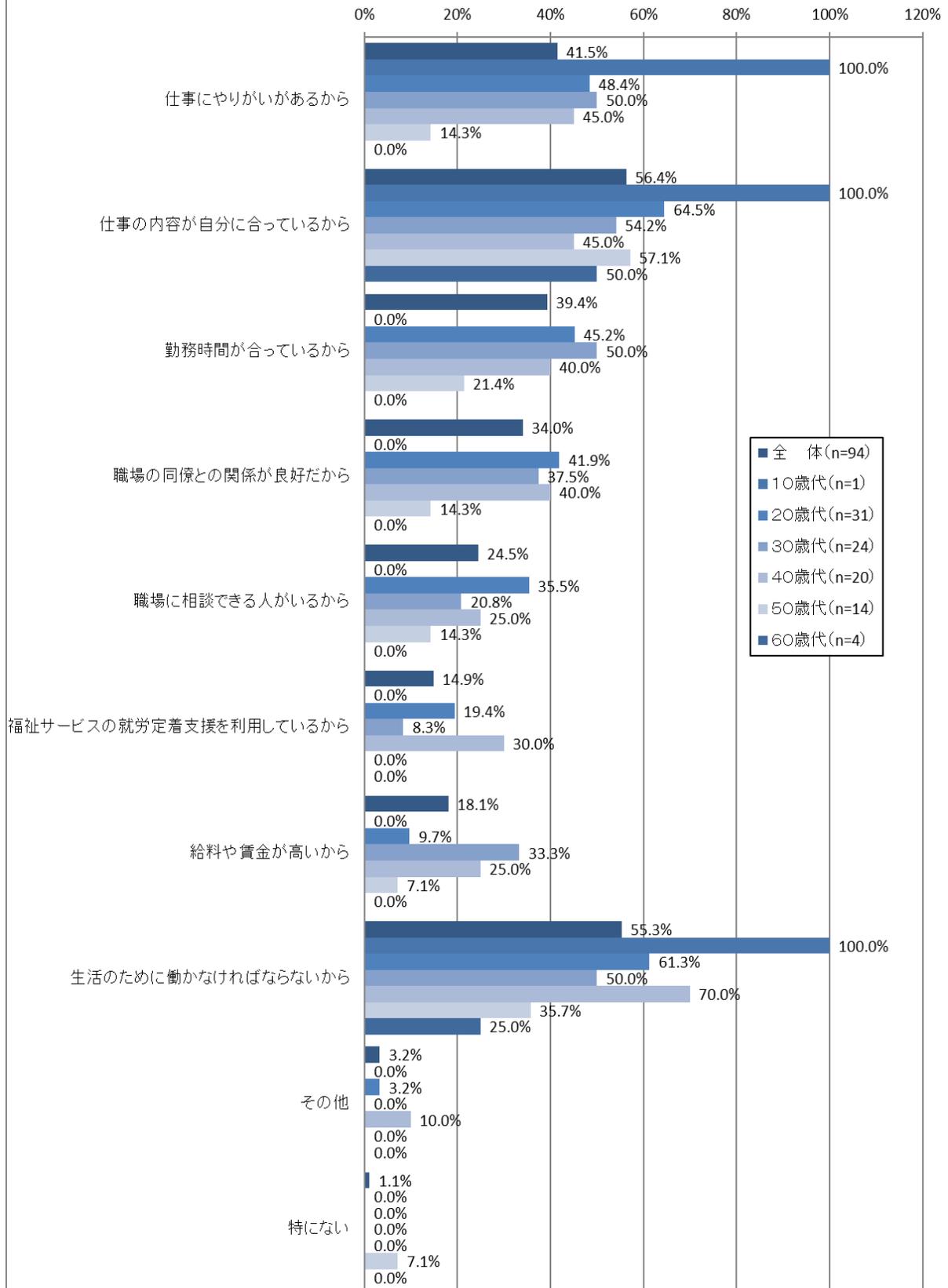
(2) 就労継続できる理由 (問 17)

問 16 で「1 年以上継続して就労している」と回答した人に、就労し続けている、または、続けることができている理由を複数回答でたずねた。

「仕事の内容が自分に合っているから」は、56.4%、「生活のために働かなければならないから」は、55.3%、「仕事にやりがいがあるから」は、41.5%、「勤務時間が合っているから」は、39.4%、「職場の同僚との関係が良好だから」は、34.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「仕事の内容が自分に合っているから」は、10 歳代が 100.0%、次に 20 歳代が 64.5%である。「生活のために働かなければならないから」は、10 歳代が 100.0%、次に 40 歳代が 70.0%である。「仕事にやりがいがあるから」は、10 歳代が 100.0%、次に 30 歳代が 50.0%である。「勤務時間が合っているから」は、30 歳代が 50.0%、次に 20 歳代が 45.2%である。「職場の同僚との関係が良好だから」は、20 歳代が 41.9%、次に 40 歳代が 40.0%である。

図表IV-B-15 就労継続できる理由—年齢別(複数回答)

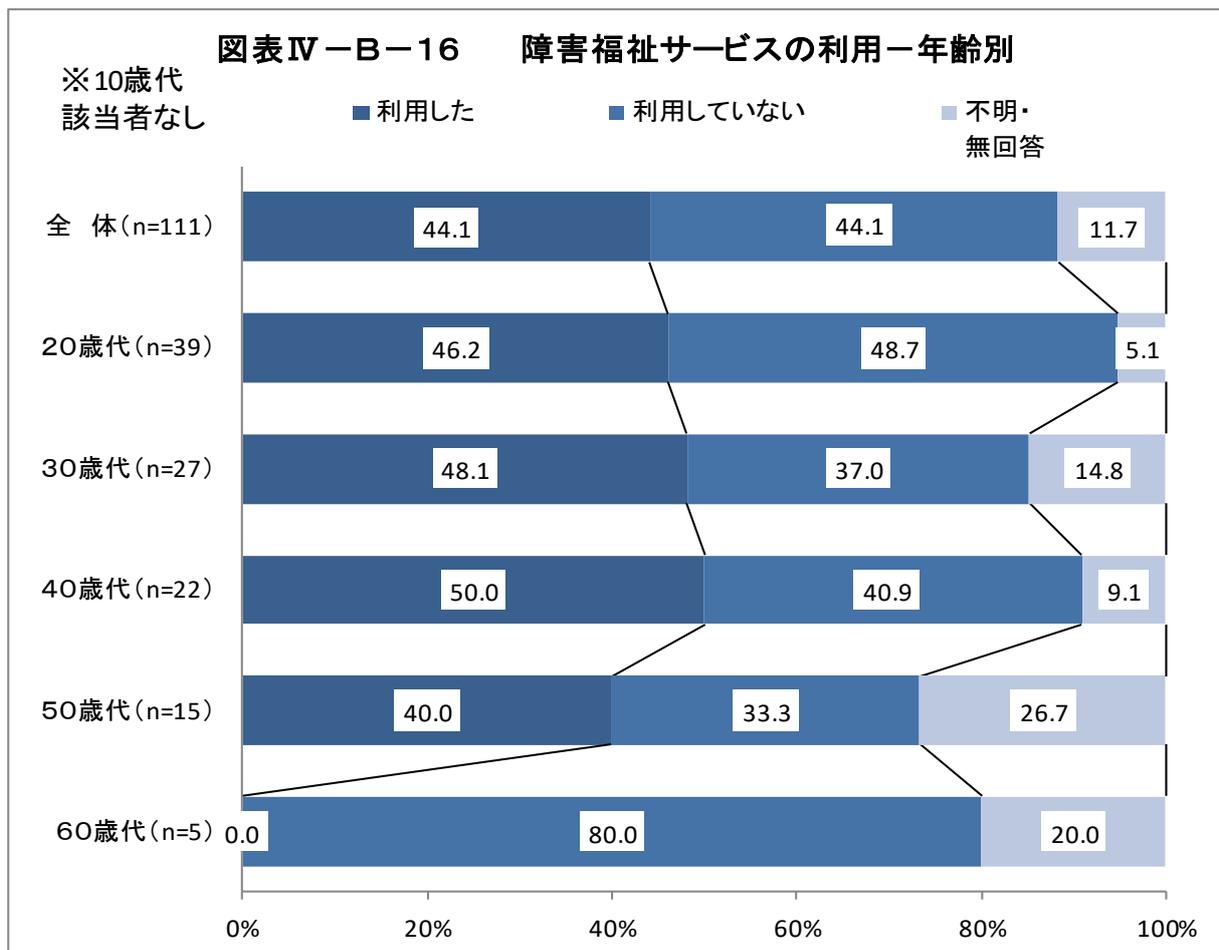


（3）障害福祉サービスの利用（問18）

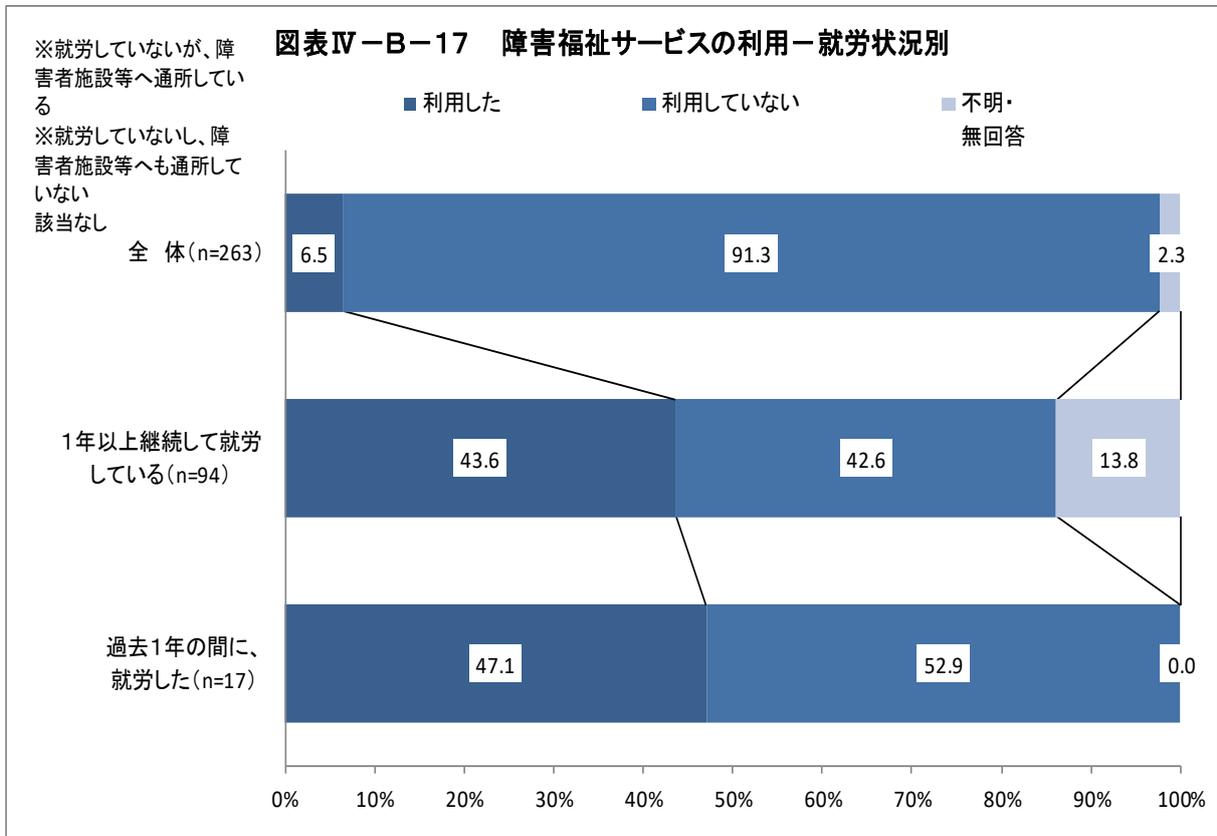
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」回答した人に、就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用した」と「利用していない」は、ともに44.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用した」は、40歳代が50.0%、次に30歳代が48.1%である。「利用していない」は、60歳代が80.0%、次に20歳代が48.7%である。



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見ると、「利用していない」は、「過去1年の間に、就労した」が52.9%、次に「1年以上継続して就労している」が42.6%である。

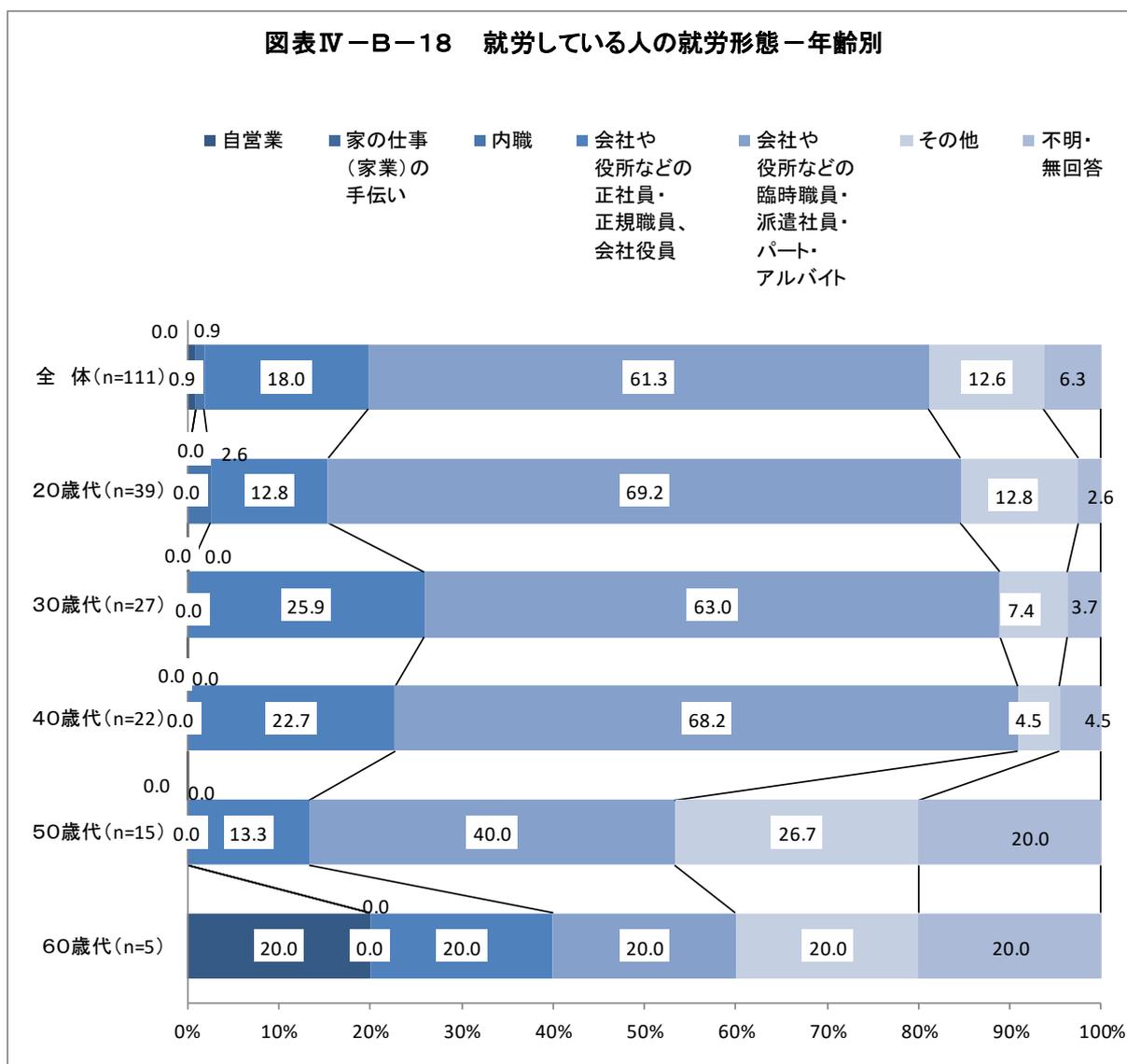


(4) 就労している人の就労形態（問19）

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、どのような仕事をしているかをたずねた。

「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、61.3%、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、18.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、20歳代が69.2%、次に40歳代が68.2%である。20歳代から40歳代の割合が高い。「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、30歳代が25.9%、次に40歳代が22.7%である。



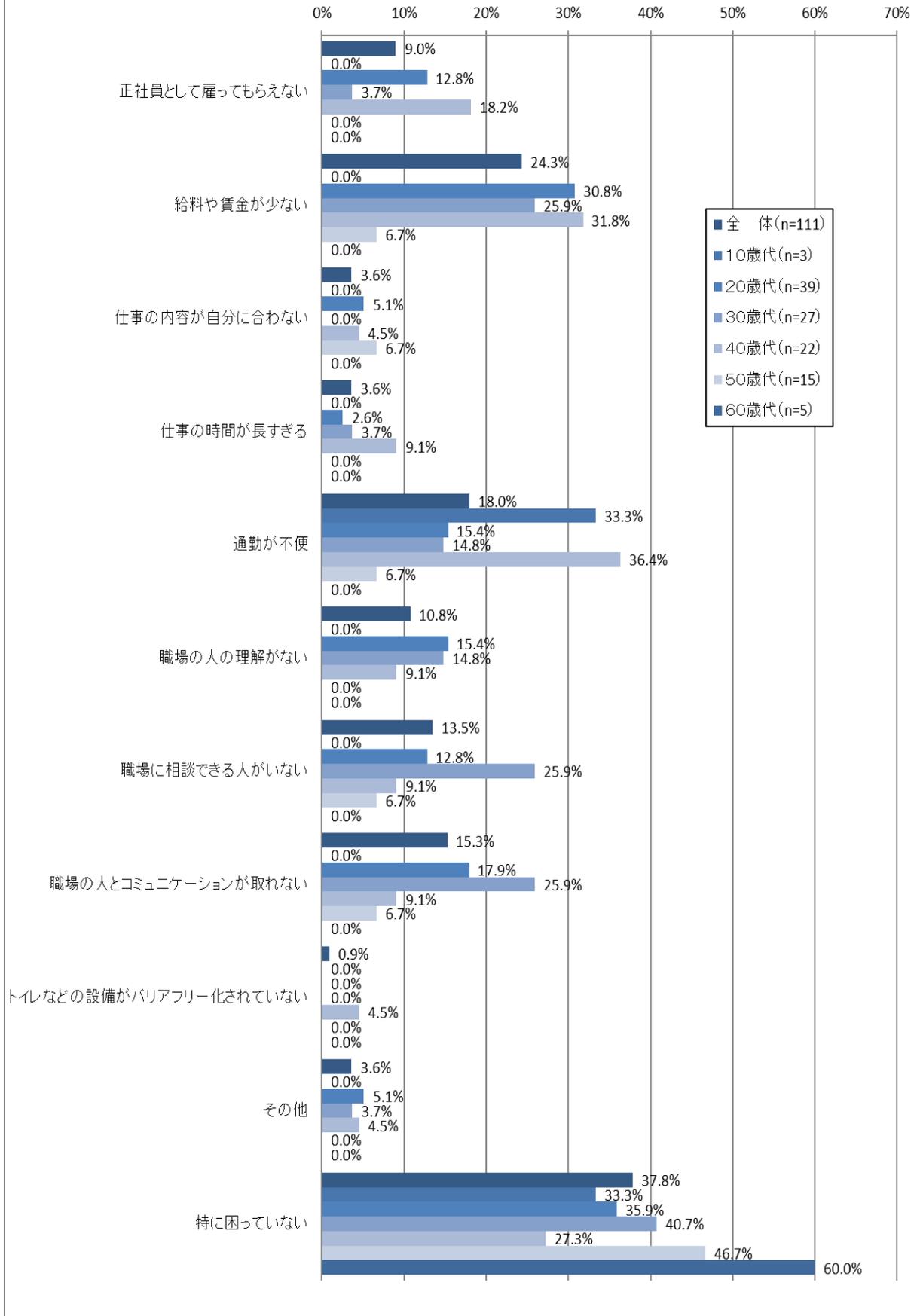
(5) 就労上で困っていること (問20)

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、就労する上で困っていることはあるかを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、37.8%、「給料や賃金が少ない」は、24.3%、「通勤が不便」は、18.0%、「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、15.3%である。

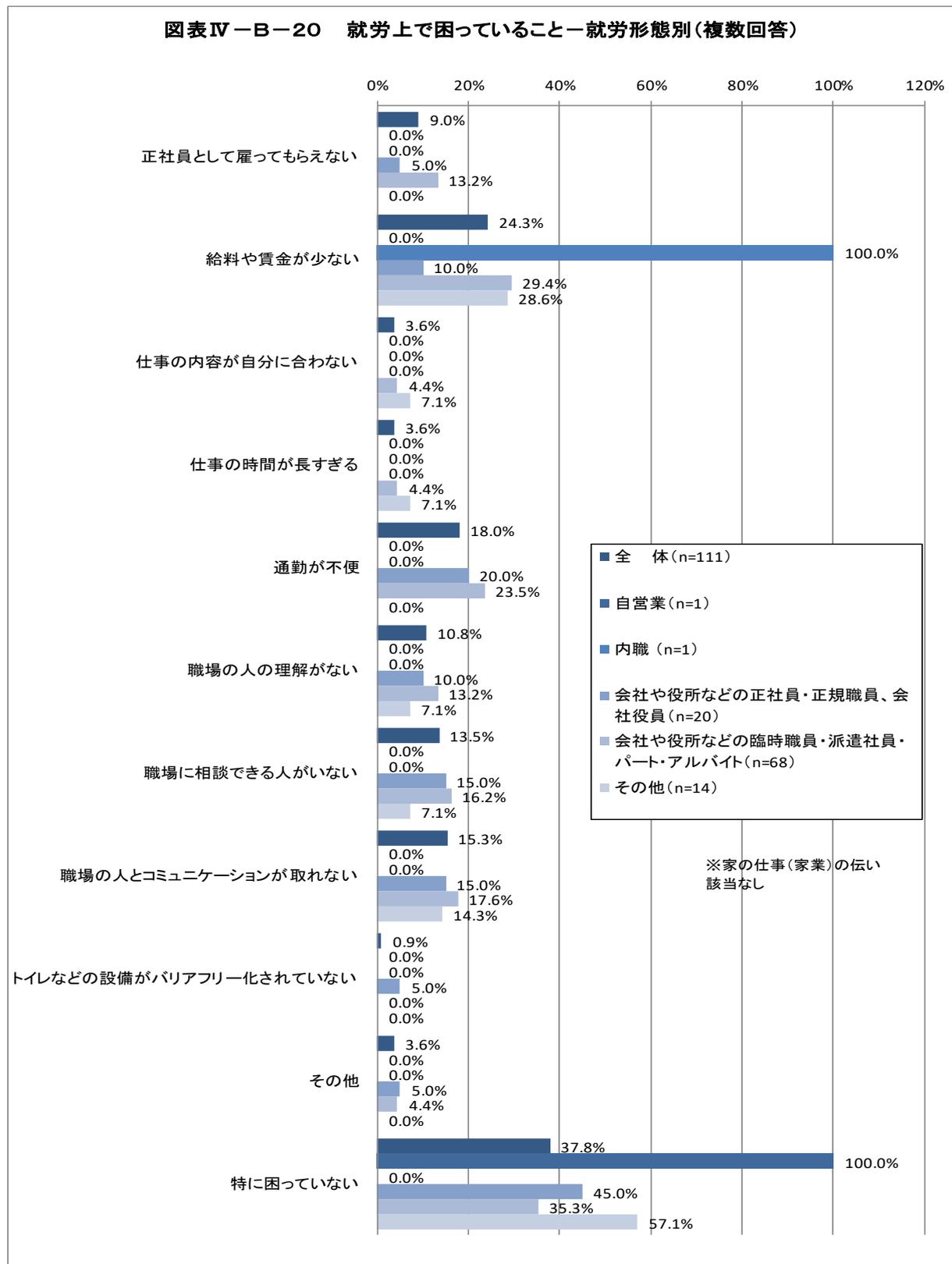
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、60歳代が60.0%、次に50歳代が46.7%である。「給料や賃金が少ない」は、40歳代が31.8%、次に20歳代が30.8%である。「通勤が不便」は、40歳代が36.4%、次に10歳代が33.3%である。「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、30歳代が25.9%、次に20歳代が17.9%である。「職場に相談できる人がいない」は、30歳代が25.9%である。

図表Ⅳ-B-19
就労上で困っていること一年齢別(複数回答)



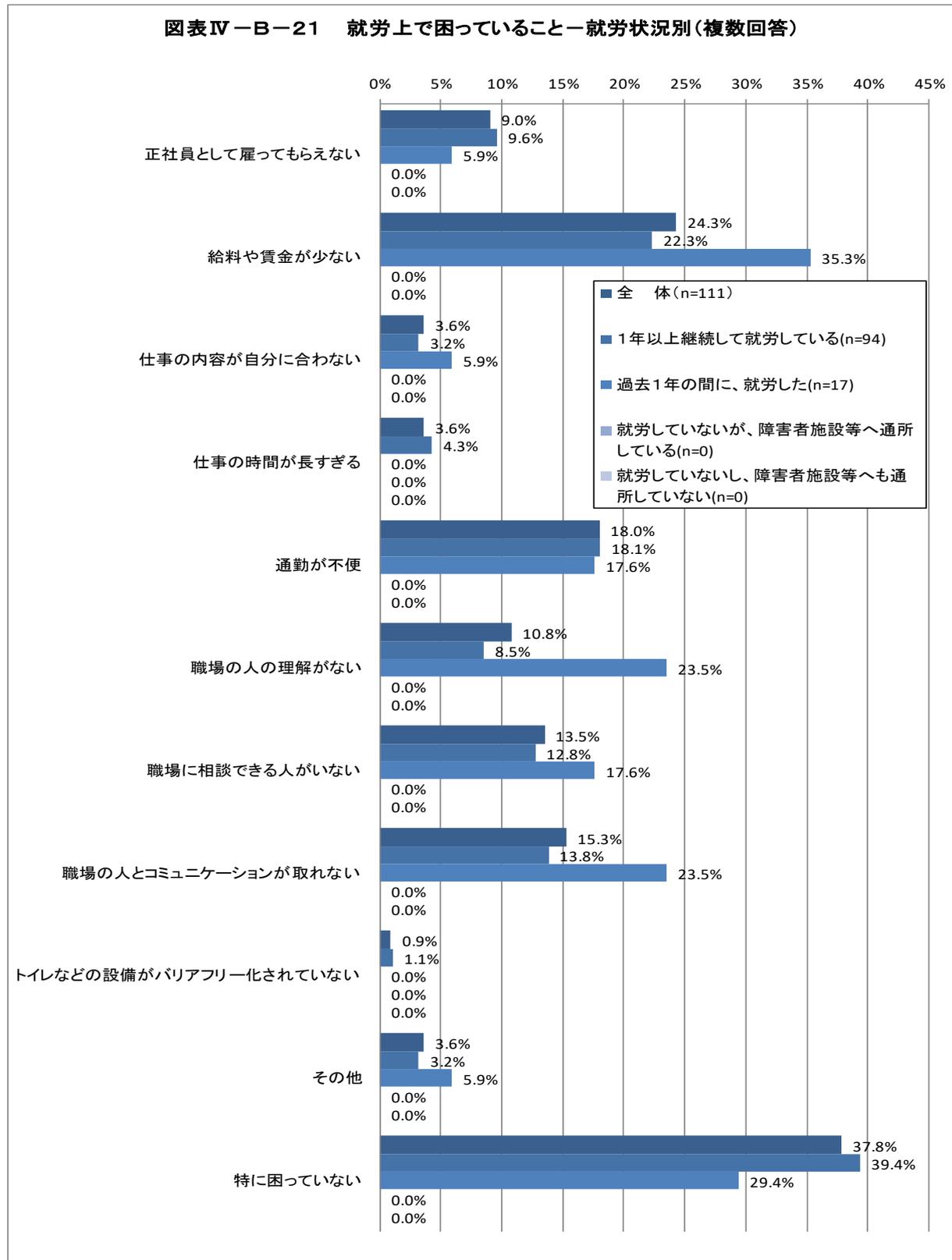
【就労形態別】他の就労形態別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「自営業」が100.0%、次に「その他」が57.1%である。「給料や賃金が少ない」は、「内職」が100.0%、次に「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が29.4%である。

図表Ⅳ-B-20 就労上で困っていること—就労形態別(複数回答)



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「1年以上継続して就労している」が39.4%、次に「過去1年の間に、就労した」が29.4%である。「給料や賃金が少ない」は、「過去1年の間に、就労した」が35.3%、次に「1年以上継続して就労している」が22.3%である。

図表Ⅳ-B-21 就労上で困っていること—就労状況別(複数回答)

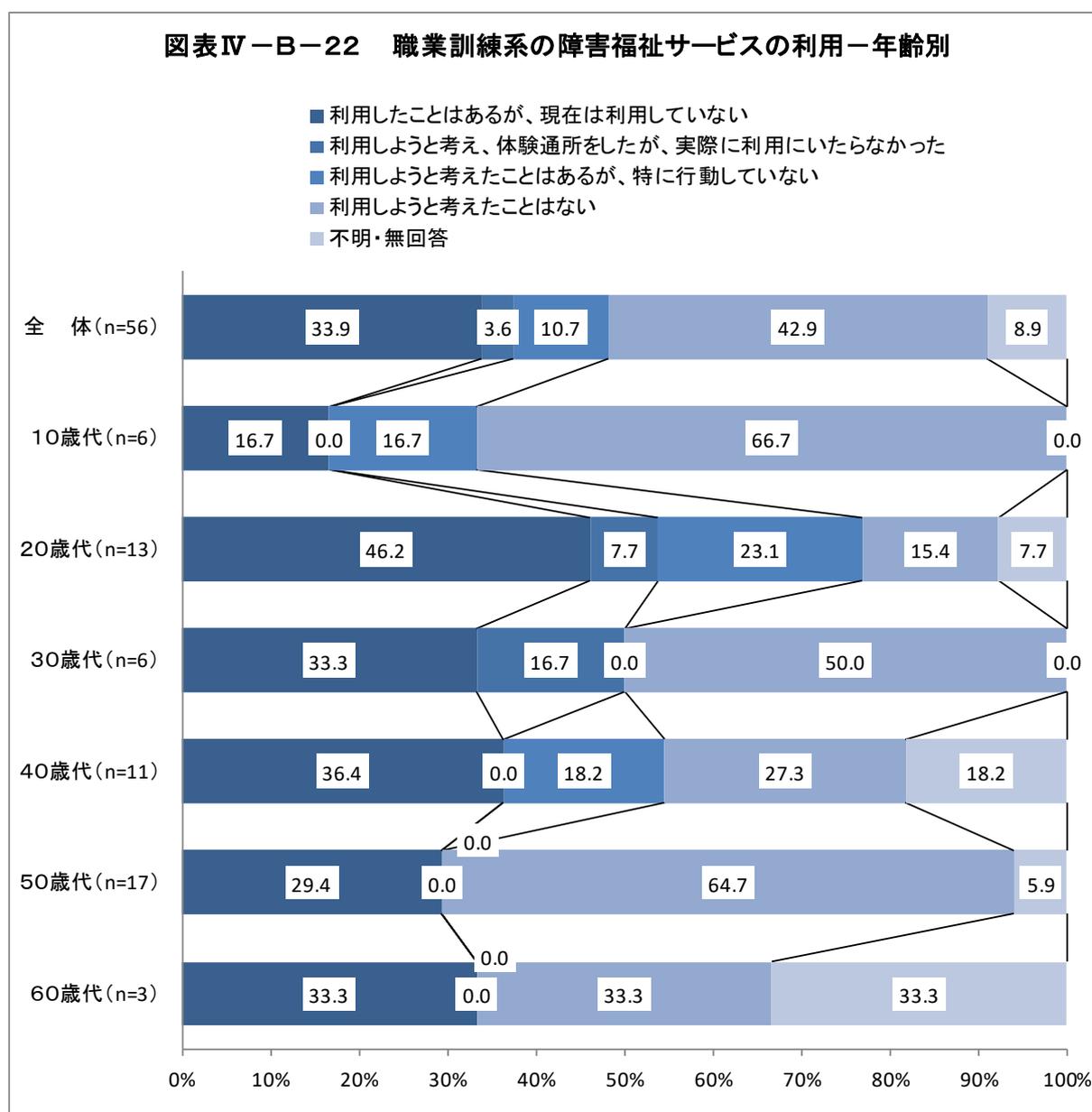


(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用（問21）

問16で「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、過去に職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用しようと考えたことはない」は、42.9%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、33.9%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、10.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、10歳代が66.7%、次に50歳代が64.7%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、20歳代が46.2%、次に40歳代が36.4%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、20歳代が23.1%、次に40歳代が18.2%である。

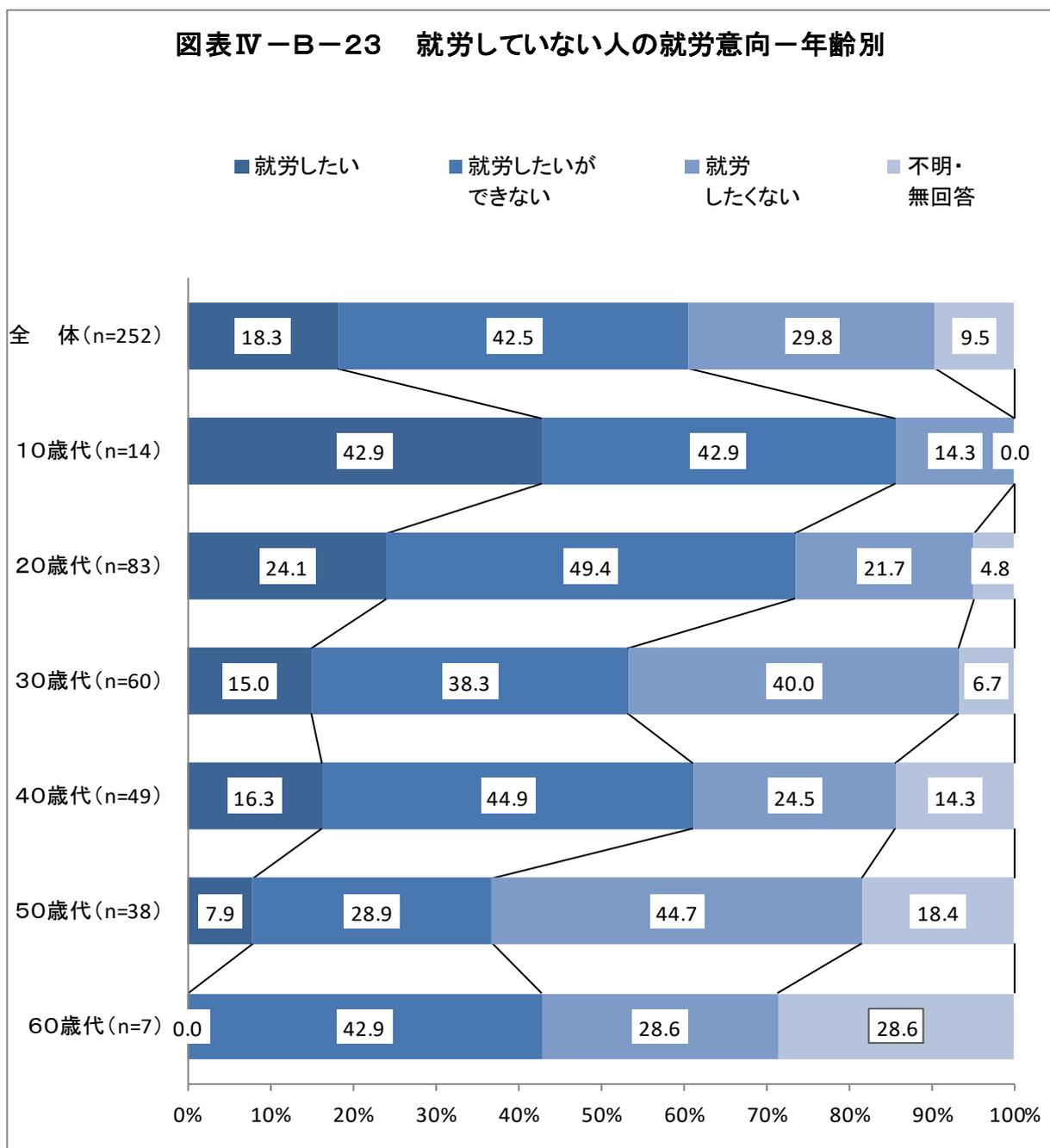


(7) 就労していない人の就労意向 (問22)

問16で「就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、就労をしたいかをたずねた。

「就労したいができない」は、42.5%、「就労したくない」は、29.8%、「就労したい」は、18.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労したいができない」は、20歳代が49.4%、次に40歳代が44.9%である。「就労したくない」は、50歳代が44.7%、次に30歳代が40.0%である。「就労したい」は、10歳代が42.9%、次に20歳代が24.1%である。



(8) 就労したい人の希望職種 (問23)

問22で「就労したい」と回答した人に、どのような内容の仕事をしたと思うかをたずねた。

「生産工程」は、45.7%、「その他」は、26.1%、「サービス業」は、13.0%、「営業、販売」は、8.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答（その他以外）を見てみると、「生産工程」は、50歳代が100.0%、次に20歳代と40歳代が50.0%である。「サービス業」は、10歳代が33.3%、次に20歳代が15.0%である。「営業、販売」は、30歳代が22.2%、次に20歳代が10.0%である。

図表IV-B-24 就労したい人の希望職種一年齢別

		農業、林業、漁業	一般事務	営業、販売	医療関係	専門的、技術的職業	サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場の管理人、警備員、清掃業など）	生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）	その他	不明・無回答	合計
全 体 (n=46)		4.3	0.0	8.7	0.0	2.2	13.0	45.7	26.1	0.0	100.0
年 齢	10歳代 (n= 6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	50.0	0.0	100.0
	20歳代 (n= 20)	5.0	0.0	10.0	0.0	0.0	15.0	50.0	20.0	0.0	100.0
	30歳代 (n= 9)	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0
	40歳代 (n= 8)	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	25.0	0.0	100.0
	50歳代 (n= 3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

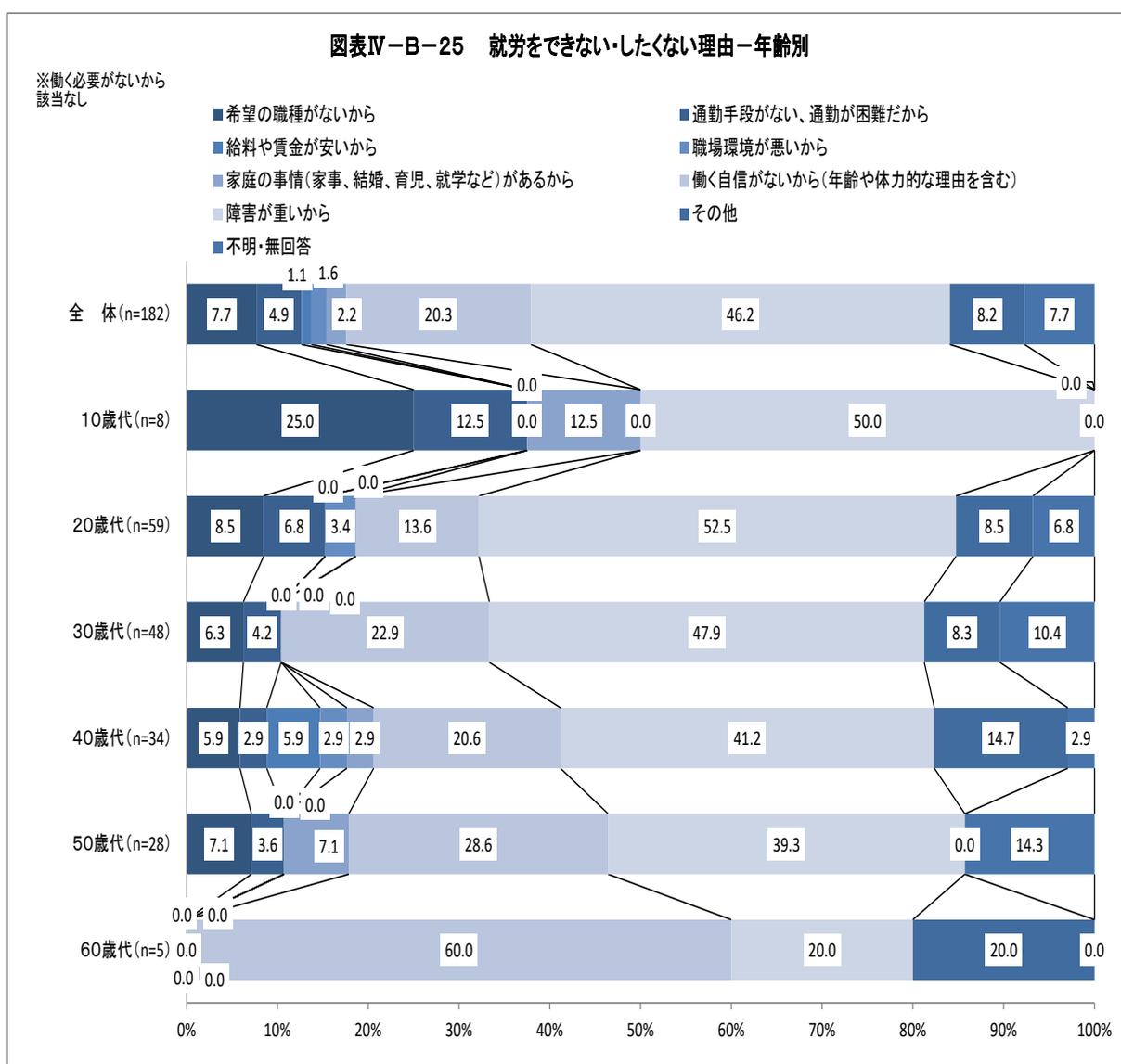
※60歳代は対象者がいない

(9) 就労できない・したくない理由（問24）

問22で「就労したいができない」または「就労したくない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「障害が重いから」は、46.2%、「働く自信がないから」は、20.3%、「希望の職種がないから」は、7.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害が重いから」は、20歳代が52.5%、次に10歳代が50.0%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「働く自信がないから」は、60歳代が60.0%、次に50歳代が28.6%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「希望の職種がないから」は、10歳代が25.0%である。

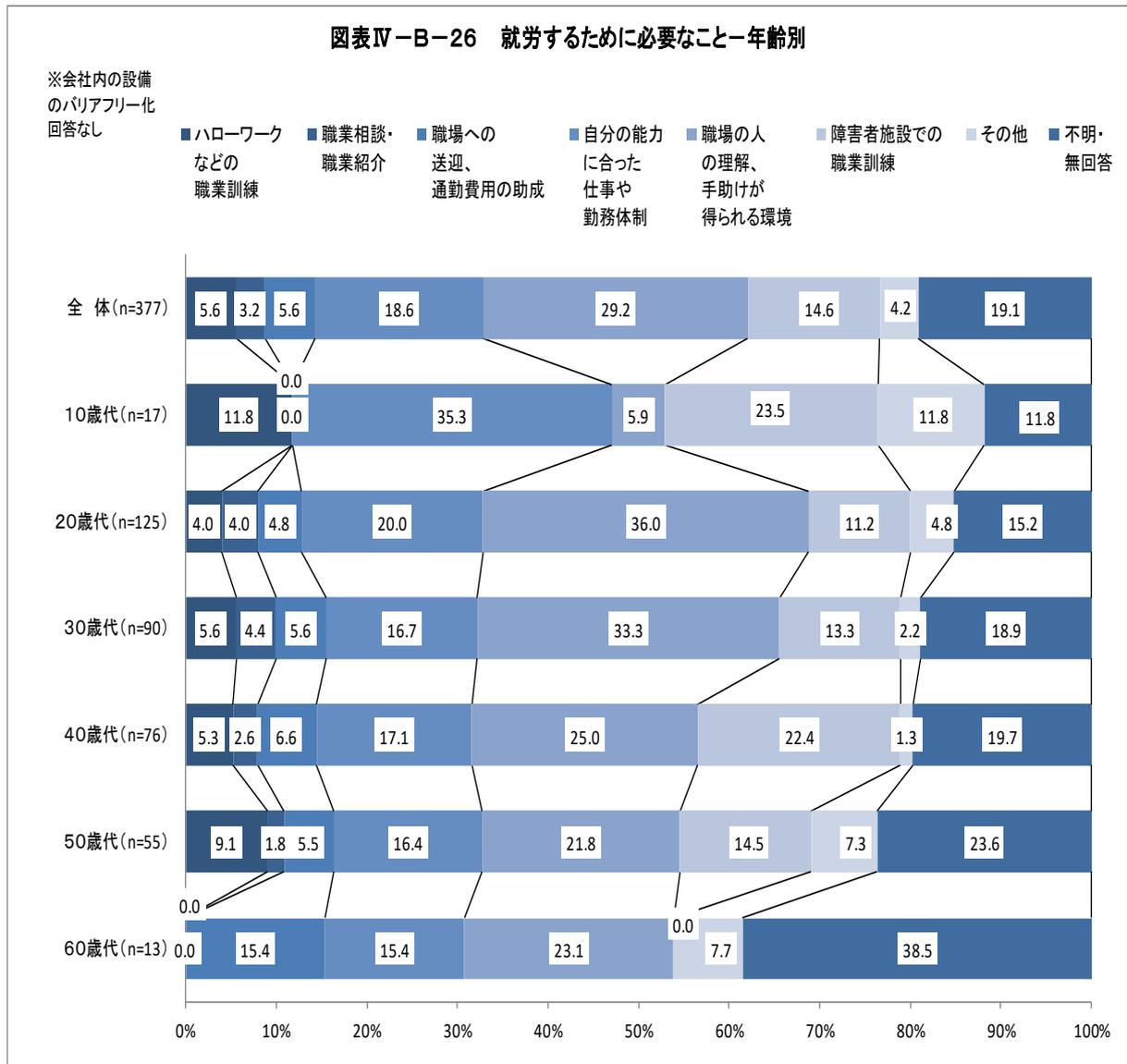


(10) 就労するために必要なこと (問25)

全員に、就労するために必要なことは何だと思いかをたずねた。

「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、29.2%、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、18.6%、「障害者施設での職業訓練」は、14.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、20歳代が36.0%、次に30歳代が33.3%である。「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、10歳代が35.3%、次に20歳代が20.0%である。「障害者施設での職業訓練」は、10歳代が23.5%、次に40歳代が22.4%である。



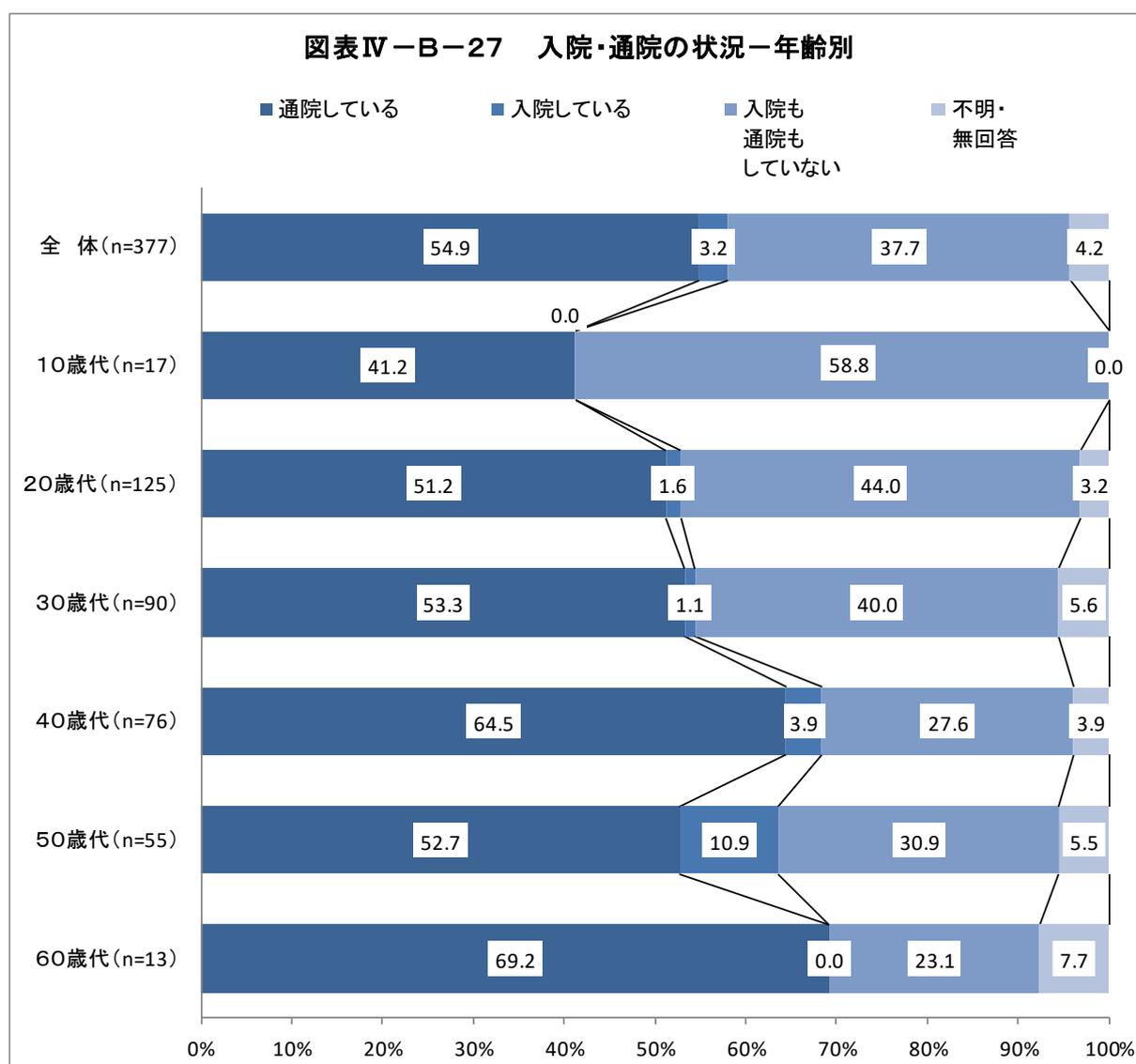
4 入院・通院について

(1) 入院・通院の状況（問26）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、54.9%、「入院も通院もしていない」は、37.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、60歳代が69.2%、次に40歳代が64.5%である。「入院も通院もしていない」は、10歳代が58.8%、次に20歳代が44.0%である。

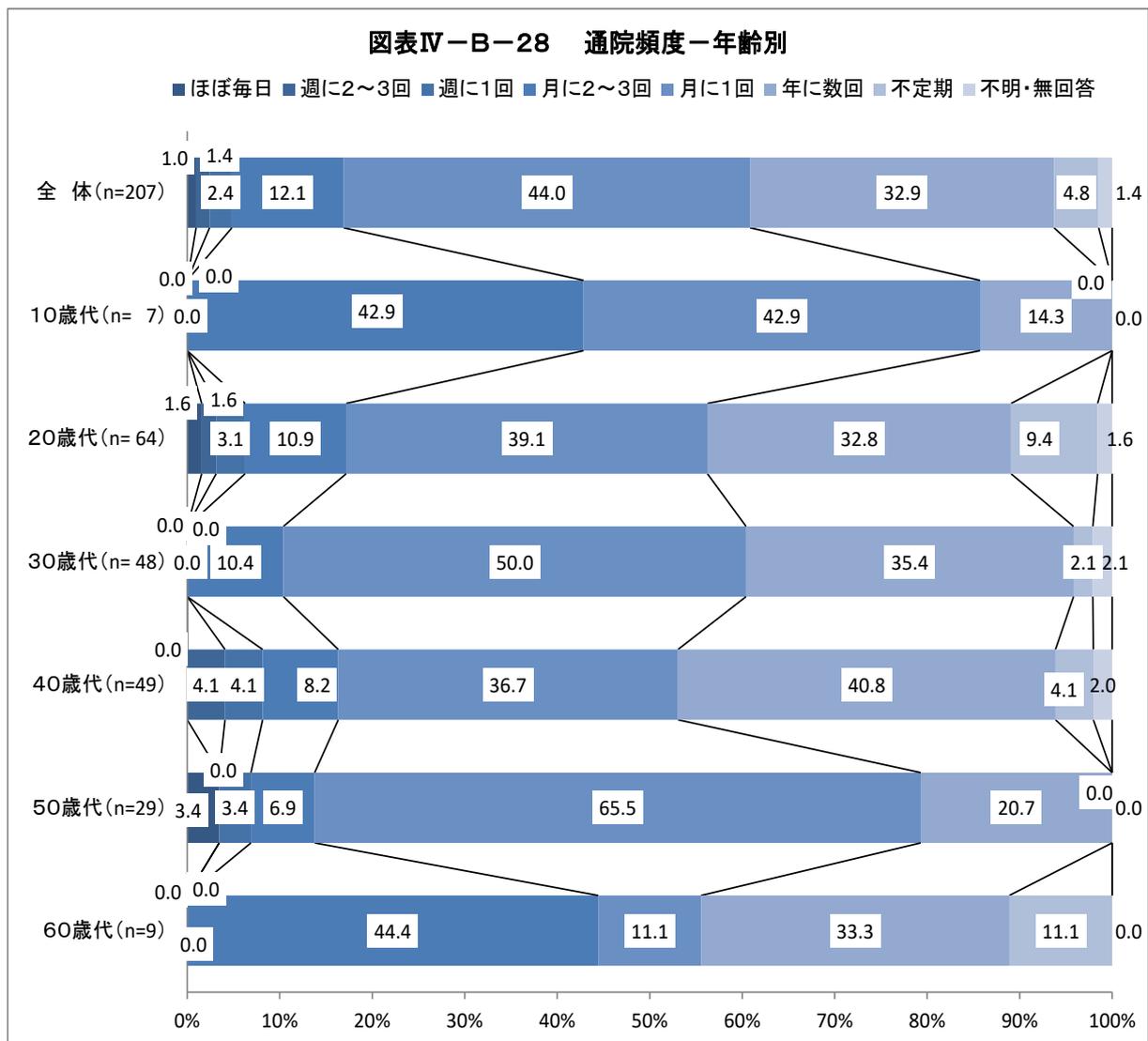


(2) 通院頻度 (問 27)

問 26 で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、44.0%、「年に数回」は、32.9%、「月に2～3回」は、12.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「月に1回」は、50歳代が65.5%、次に30歳代が50.0%である。「年に数回」は、40歳代が40.8%、次に30歳代が35.4%である。「月に2～3回」は、60歳代が44.4%、次に10歳代が42.9%である。



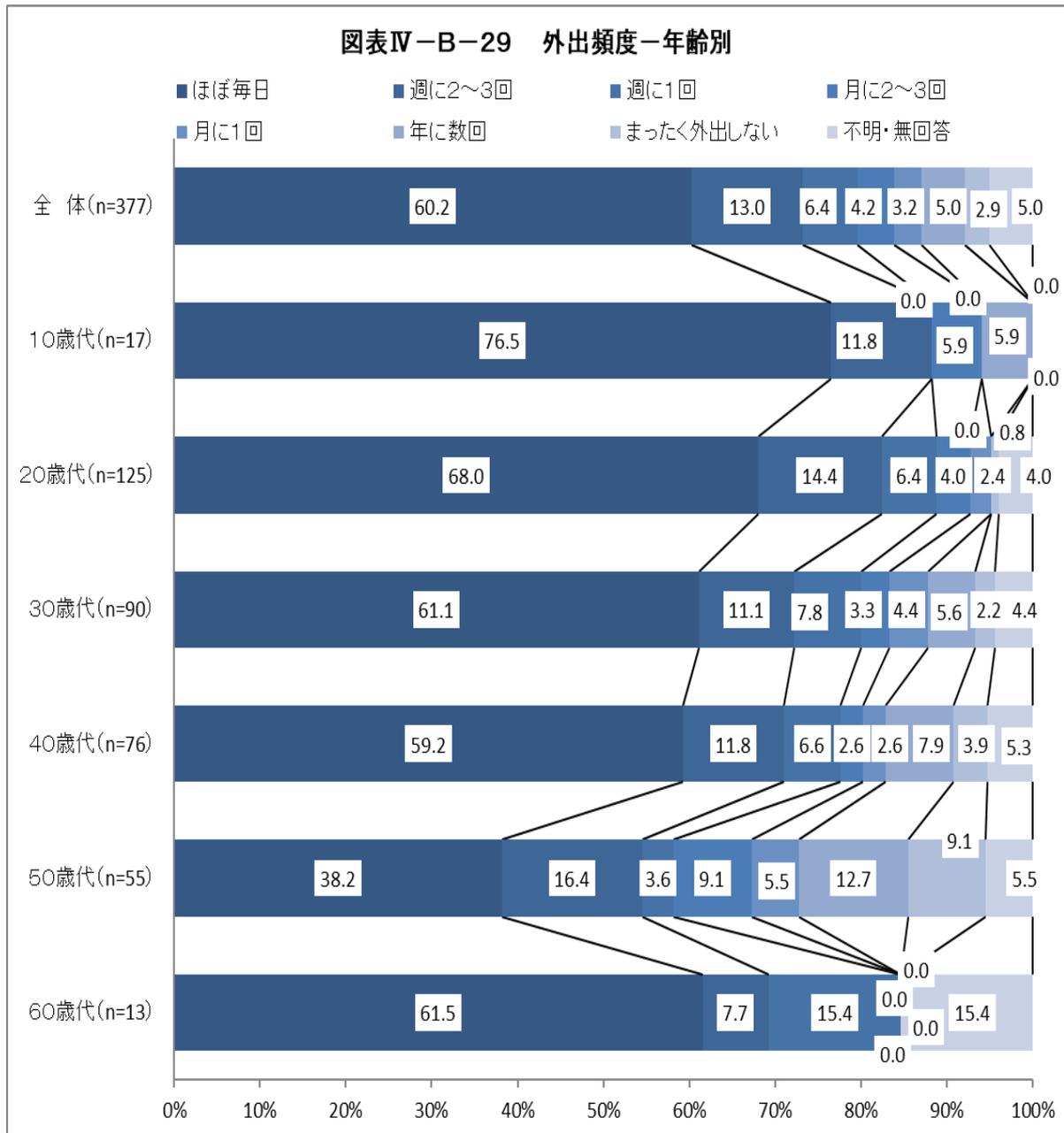
5 外出について

(1) 外出頻度 (問28)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、60.2%、「週に2～3回」は、13.0%、「週に1回」は、6.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、10歳代が76.5%、次に20歳代が68.0%である。「週に2～3回」は、50歳代が16.4%、次に20歳代が14.4%である。「週に1回」は、60歳代が15.4%、次に30歳代が7.8%である。

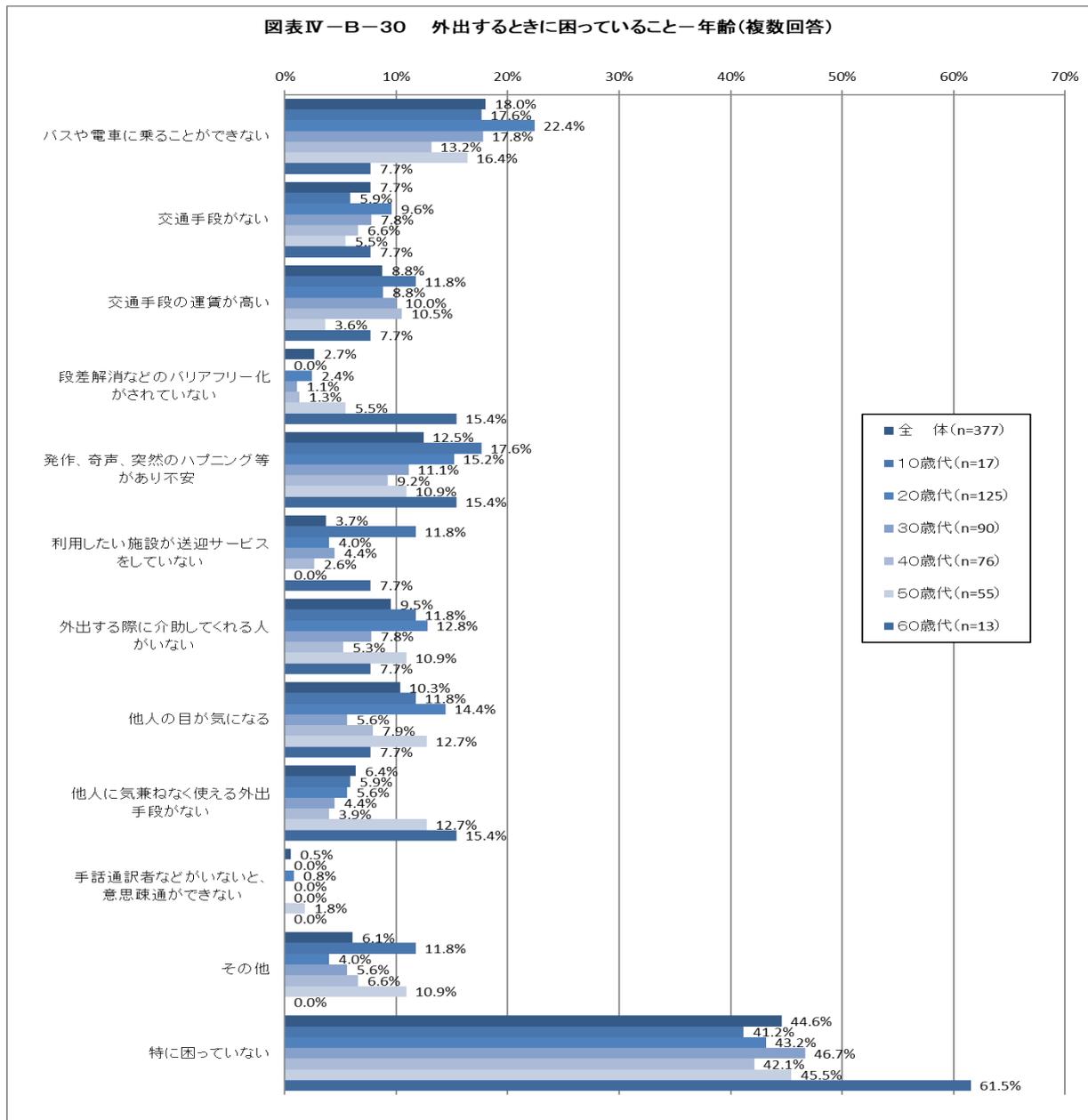


(2) 外出時に困っていること (問29)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、44.6%、「バスや電車に乗ることができない」は、18.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、60歳代が61.5%、次に30歳代が46.7%である。「バスや電車に乗ることができない」は、20歳代が22.4%、次に30歳代が17.8%である。「発作、奇声、突然のハプニング等」は、10歳代が17.6%、次に60歳代が15.4%である。「他人の目が気になる」は、20歳代が14.4%、次に50歳代が12.7%である。

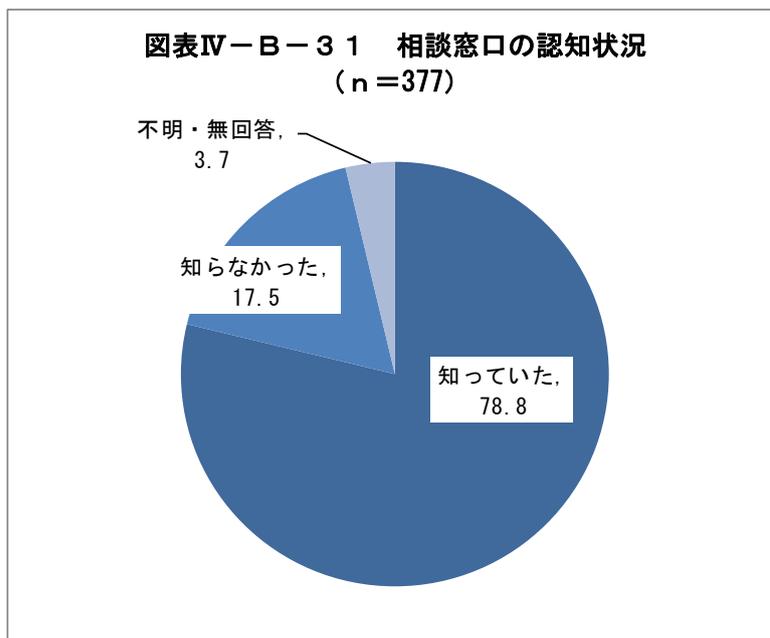


6 相談窓口について

(1) 相談窓口の認知状況 (問30)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

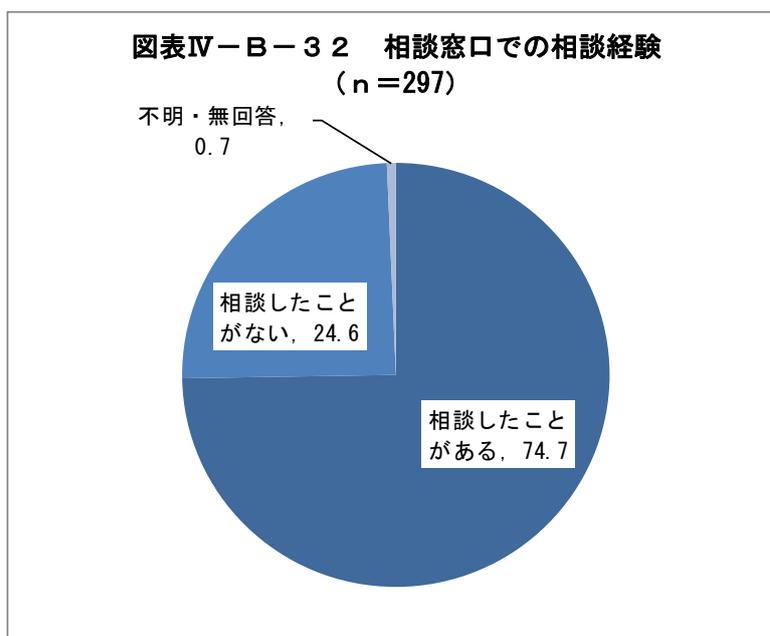
「知っていた」は、78.8%、「知らなかった」は、17.5%である。



(2) 相談窓口での相談経験 (問31)

問30で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

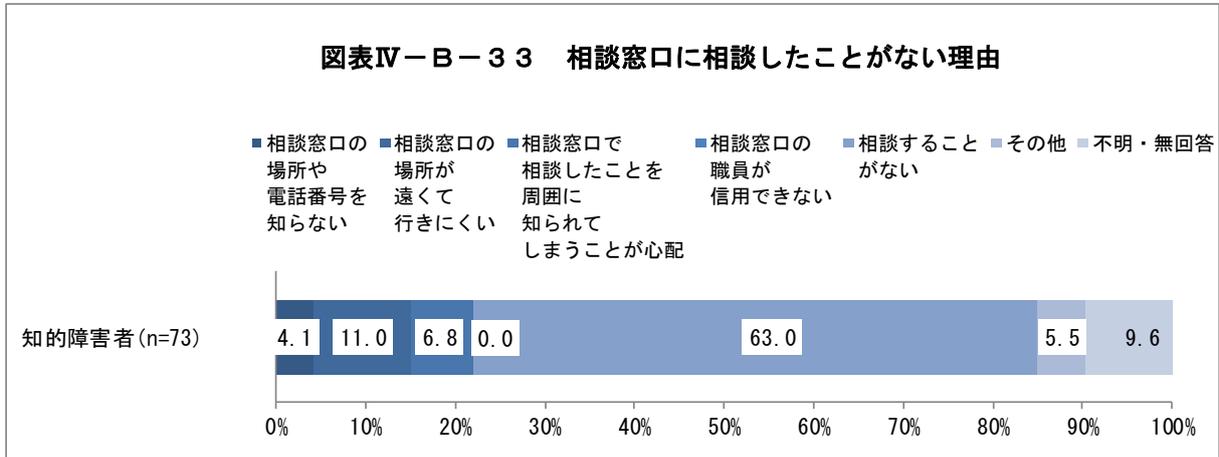
「相談したことがある」は、74.7%、「相談したことがない」は、24.6%である。



(3) 相談窓口で相談したことがない理由 (問32)

問31で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、63.0%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、11.0%、「相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配」は、6.8%である。



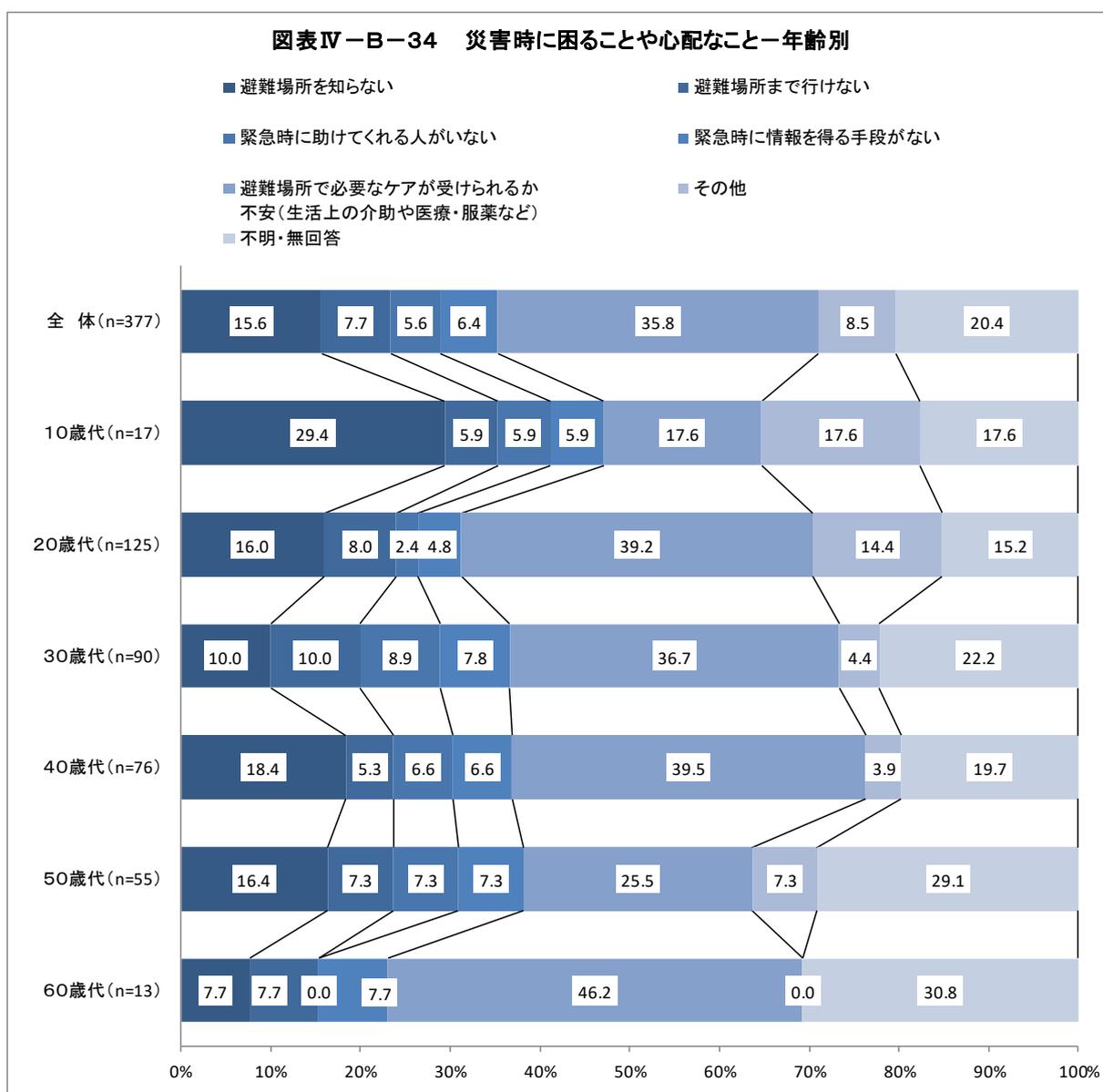
7 災害時について

(1) 災害時に困ることや心配なこと（問33）

災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、35.8%、「避難場所を知らない」は、15.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、60歳代が46.2%、次に40歳代が39.5%である。「避難場所を知らない」は、10歳代が29.4%、次に40歳代が18.4%である。「避難場所まで行けない」は、30歳代が10.0%である。



8 障害のある人への差別について

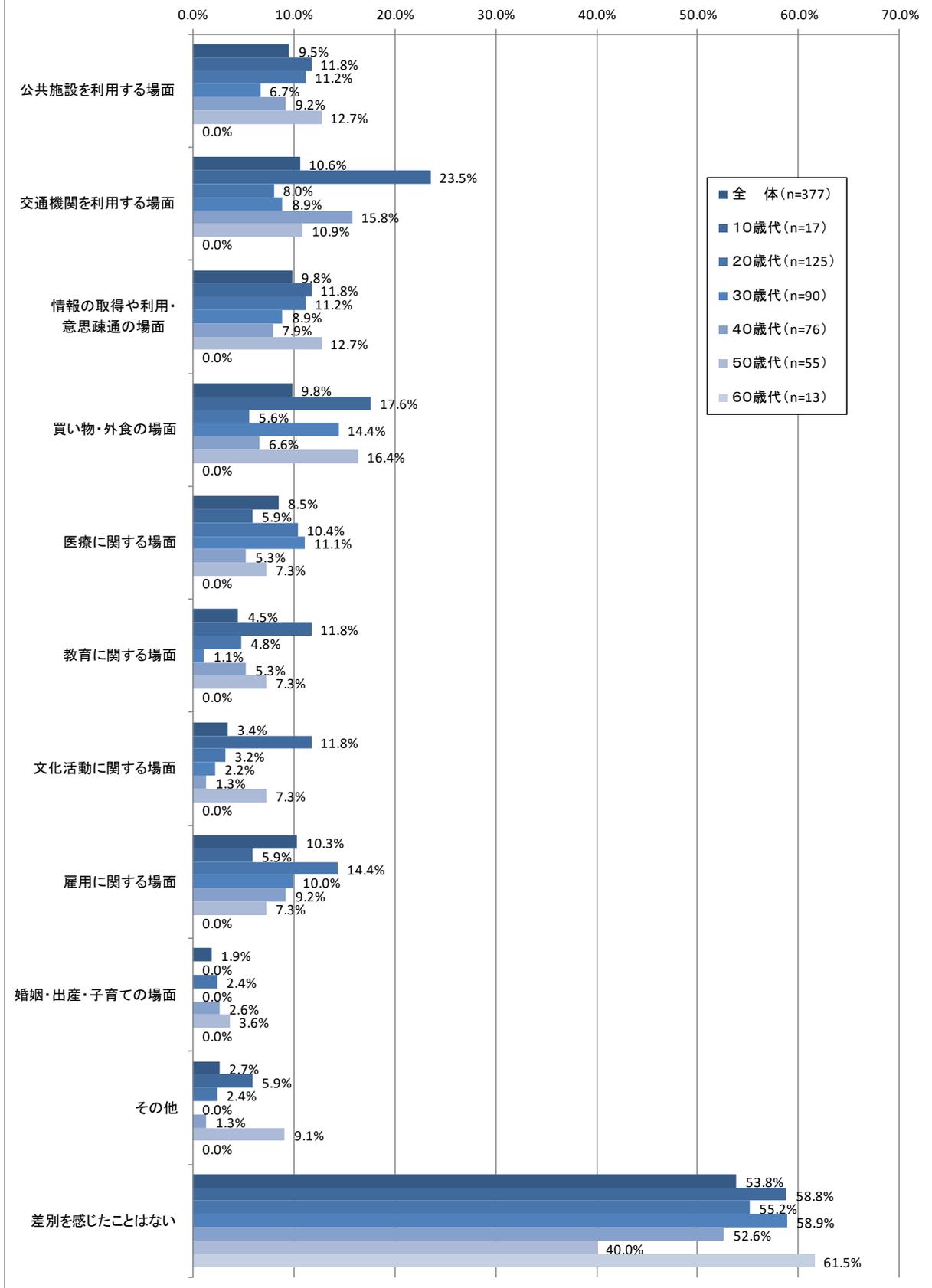
(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問34）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、53.8%、「交通機関を利用する場面」は、10.6%、「雇用に関する場面」は、10.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、60歳代が61.5%、次に30歳代が58.9%である。「交通機関を利用する場面」は、10歳代が23.5%、次に40歳代が15.8%である。「雇用に関する場面」は、20歳代が14.4%、次に30歳代が10.0%である。「買い物・外食の場面」は、10歳代が17.6%、次に50歳代が16.4%である。

図表Ⅳ-B-35 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別

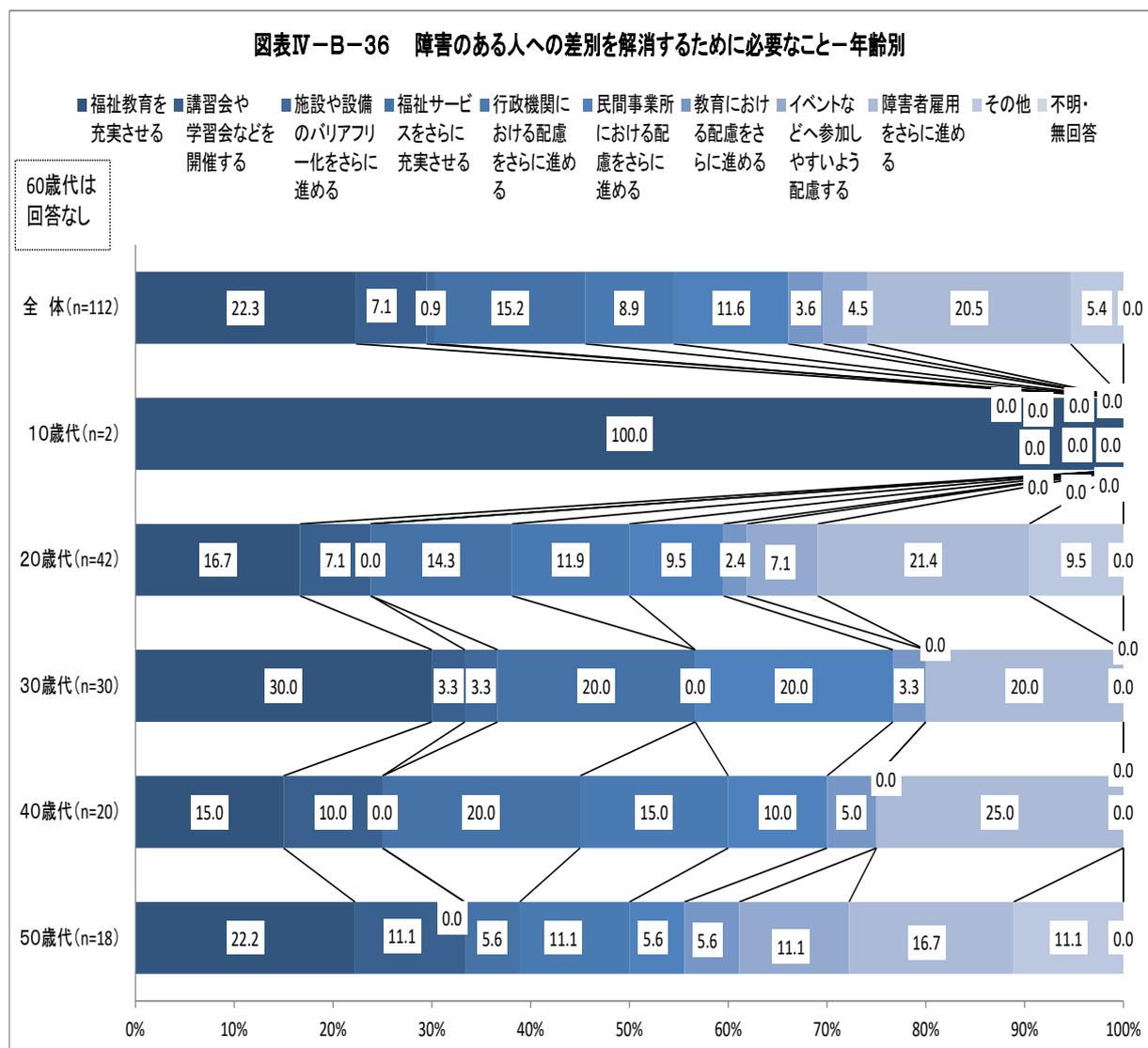


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問35)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉教育を充実させる」は、22.3%、「障害者雇用をさらに進める」は、20.5%、「福祉サービスをさらに充実させる」は、15.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「福祉教育を充実させる」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が30.0%である。「障害者雇用をさらに進める」は、40歳代が25.0%、次に20歳代が21.4%である。「福祉サービスをさらに充実させる」は、30歳代と40歳代がともに20.0%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、40歳代が15.0%である。



9 社会生活について

(1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問36）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「社会的な理解の促進」は、24.1%、「障害福祉サービスの充実」は、20.2%、「経済的な支援」は、17.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「社会的な理解の促進」は、50歳代が29.1%、次に20歳代が28.0%である。「障害福祉サービスの充実」は、60歳代が23.1%、次に30歳代が21.1%である。「経済的な支援」は、10歳代が29.4%、次に60歳代が23.1%である。

